PERIODICAL
P. D. F. I. LIBRARY
SEP 30 1959
FISH & WILDLIFE SERVICE

鮪漁業

鮪漁業 第六十一号 昭和三十四年八月十日発行 （毎月一回十日発行）
昭和三十一年二月二十三日 第三種郵便物認可

TUNA FISHING

—舷側に躍る—

SEP 30 11 52 AM '59
BUREAU OF COMMERCIAL FISHERIES

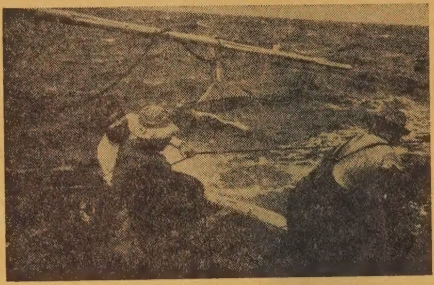
THE INVESTIGATIVE SOCIETY OF TUNA FISHERY JAPAN

鮪 漁 業　研 究 会

No. 61, 1959
August

倉敷ビニロン クレモナ 万漁

鮪延縄・ロープ・漁網



くさらない
使いやすい
値も安い

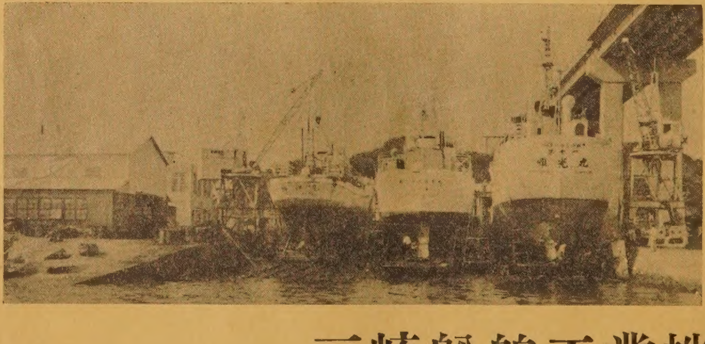
倉敷レイヨン株式会社

本社 大阪市北区梅田2(第一生命ビル)
東京事務所 東京都中央区日本橋室町2の4

—設備完成—

鋼木船造修一般

500噸船台三基
起重機10噸・5噸各一基



三崎船舶工業株式会社

本社 東京都中央区西八丁堀2の10
電話築地(55)966・15
工場 神奈川県三浦市三崎町向ヶ崎2446
電話(三浦)2880・2934・2343

目　次

鮪漁船紹介　鳳竜丸　第18全功丸

鮪漁場図　(1958年9月操業)

1958年9月に於ける鮪漁場の漁況と海況（委託調査船185隻の資料に依る）

Fishing and Sea Condition of Tuna Fishing Grounds in Sept. 1958

(By the data collected from the 185 appointed boats) …… 1

1. 調査の概要 …… 1

2. 漁況の概要 …… 1

3. 各海区の漁況と海況 …… 2

A. 赤道以北140°W以東の漁場 …… 2

B. 赤道以南140°W以東の漁場 …… 3

C. 赤道以北180—140°Wの漁場 …… 4

D. 赤道以南180—140°Wの漁場 …… 5

E. 北部太平洋漁場 …… 6

F. 旧南洋庁沿海漁場 …… 7

G. ソロモン以南漁場 …… 8

H. 東部印度洋漁場 …… 10

I. 中西部印度洋漁場 …… 11

J. 大西洋漁場 …… 11

会員レポート……第7昭福丸 漁撈長 会員 伊藤 定規 …… 12

月別，漁場別，鮪類漁獲調査表（1958年9月操業分） 別表1 …… 13

月別，漁場別，鮪類体長組成表（1958年9月操業分） 別表2 …… 17

マグロ漁況概況予報（1959年10月）…… 神奈川県水試漁業指導科 …… 24

鮪類標識放流について …… 25

クロカワの西部太平洋における漁獲と体長の周年変化および　性，回遊との関係 …… 中込　淳 …… 26

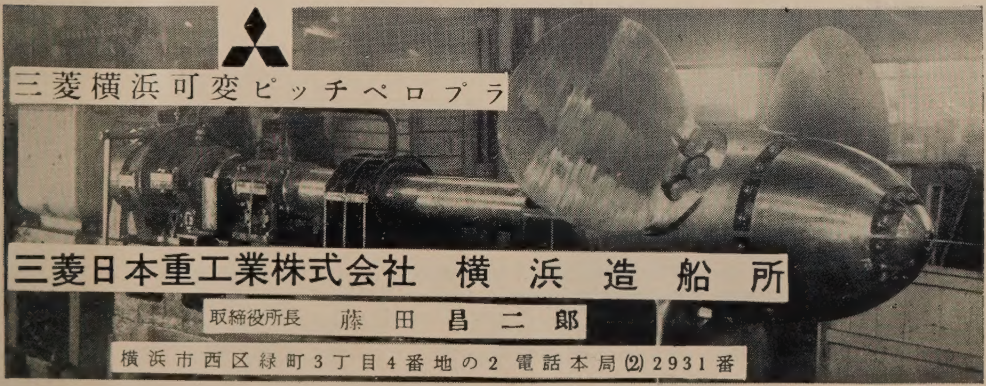
マグロ研究報告の紹介 No. 4 …… 27

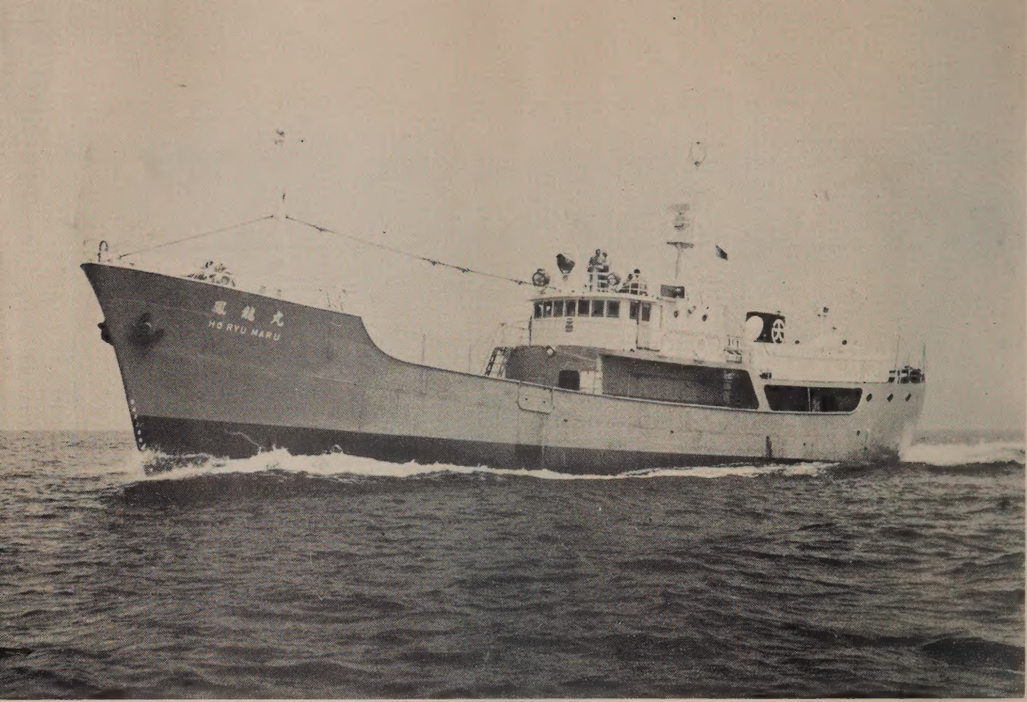
鮪類水揚価格表（三崎）昭和34年7月 …… 29

船舶の青酸ガス燻蒸並びに強力殺虫ラッカーに就て（紹介欄）…… 23

—表紙写真　三崎無線通信士協会写真部提供—

暑　中　御　伺　　1959年盛夏





鳳　竜　丸

船主	大都魚類株式会社
造船所	東造船株式会社（横須賀市）
主要寸法	長40.08m×幅6.80m×深3.40m
総屯数	237.92屯
魚艙容積	235.87m³
燃料油艙	137.95m³
速力	最大 11.62節
主機	デーゼル650HP（神戸発動機）1基
補機	デーゼル 80HP（ヤンマー）2基
無線	250W，100W（日新無線）各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式 23.5RT 19.2RT（三菱電機）2基
レーダー（協立），方探（光電），ヘルショウ舵取器（川崎重工）其の他	各1式
竣工	昭和34年6月12日

漁船の冷凍装置に定評ある

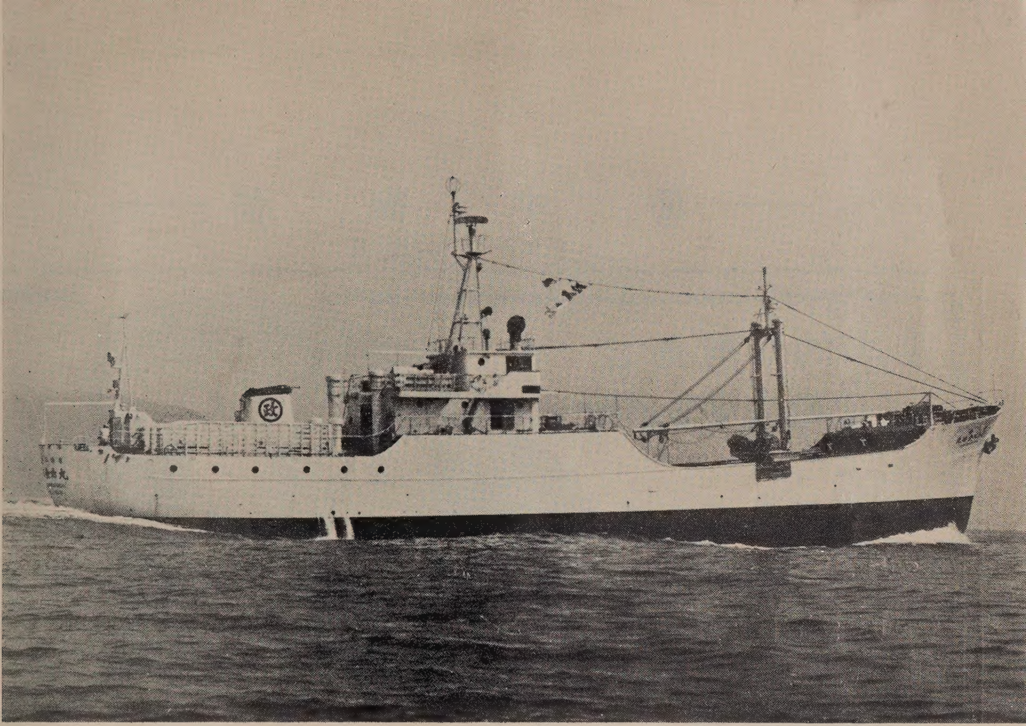
日新興業株

本　　社　大阪市北区中之島3の3（朝日ビル）
東京支店　東京都中央区銀座西6の3（朝日ビル）
清水出張所　清水市三保本村四区
三崎サービスステーション 三浦市三崎町西野34金指

各種漁船用デイーゼル機関は定評ある
50馬力～5000馬力

株式会社 赤阪鉄工所

本　　社　東京都中央区銀座一ノ三（千成屋ビル）電話京橋（56）4902～3
北海道出張所　札幌市北四条西六丁目（北洋ビル）　電話（3）4507
大阪出張所　大阪市東区北浜四ノ三八　電話北浜（23）4790
工　　場　静岡県焼津市中港町五九四　電話（焼津）2121～5



第 18 全 功 丸

船 主	奥津漁業株式会社
造船所	株式会社 金指造船所
主要寸法	長47.30m×幅8.80m×深4.30m
総屯数	526.90屯
魚艙容積	660m³
燃料油艙	245m³
速 力	最大 12節
主 機	デーゼル1.100HP（赤阪鉄工）1基
補 機	デーゼル 200HP（ 〃 ）2基
無 線	500W，125W（三崎電機）各1基
冷凍装置	日新興業設計施工，アンモニヤ直膨式 65HP 3基
レーダー	(神戸工業)，ローラン(東計)，音測(海上電機)，G.C.P(東計)其の他 各1式
竣 工	昭和34年8月5日

式 会 社

TEL. 北浜（23）9736—7（直通）
大代表(23)9531(朝日ビル交換台)
TEL. 銀座（57） 7607（代表）
TEL. 清水（2） 3507
造船所三崎出張所内TEL.三浦2851

施工船名

第 18 全 功 丸
鳳 竜 丸
第 3 松 友 丸
第 2 清 勝 丸
第 35 宝 幸 丸
第 28 事 代 丸
(其の他 約六百隻)

各種鋼製漁船の建造並に修理

株式会社 金指造船所

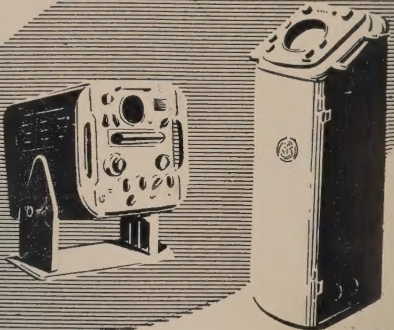
本社工場 清水市三保4010—19 電話 清水(2) 4111～5
塚間工場 清水市三保弁天492 電話 清水(2) 5151～2
東京事務所 東京都港区芝田村町3ノ4 電話 芝(59)1306～8
三崎出張所 三浦市三崎町西野34 電話（三浦）2851

——暑　中　御　伺——

1959年盛夏

能率的な航海は
信頼出來る計器で

スペリー式
マリン・レーダー
マリン・ロラン



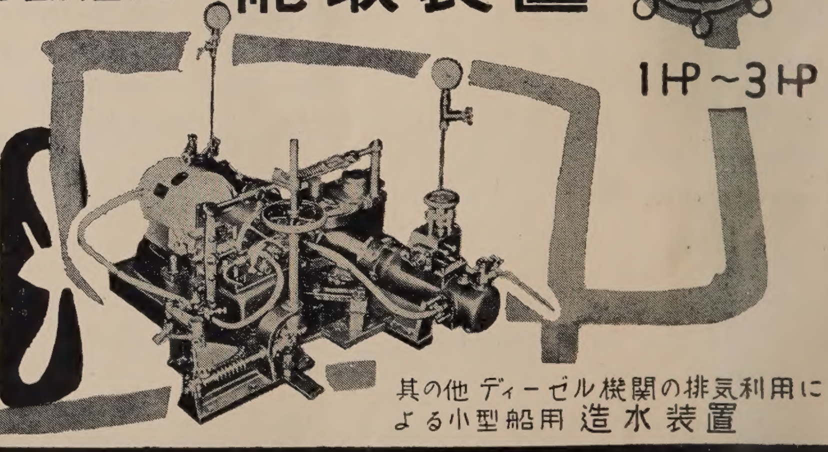
株式会社東京計器製造所

本社工場　東京都大田区東蒲田4の31　電話(73) 2211～9

出張所及びサービスステーション　神戸・函館・長崎・横浜　名古屋・下関

川崎ヘルショウ式
電動油圧　舵取装置

1HP～3HP



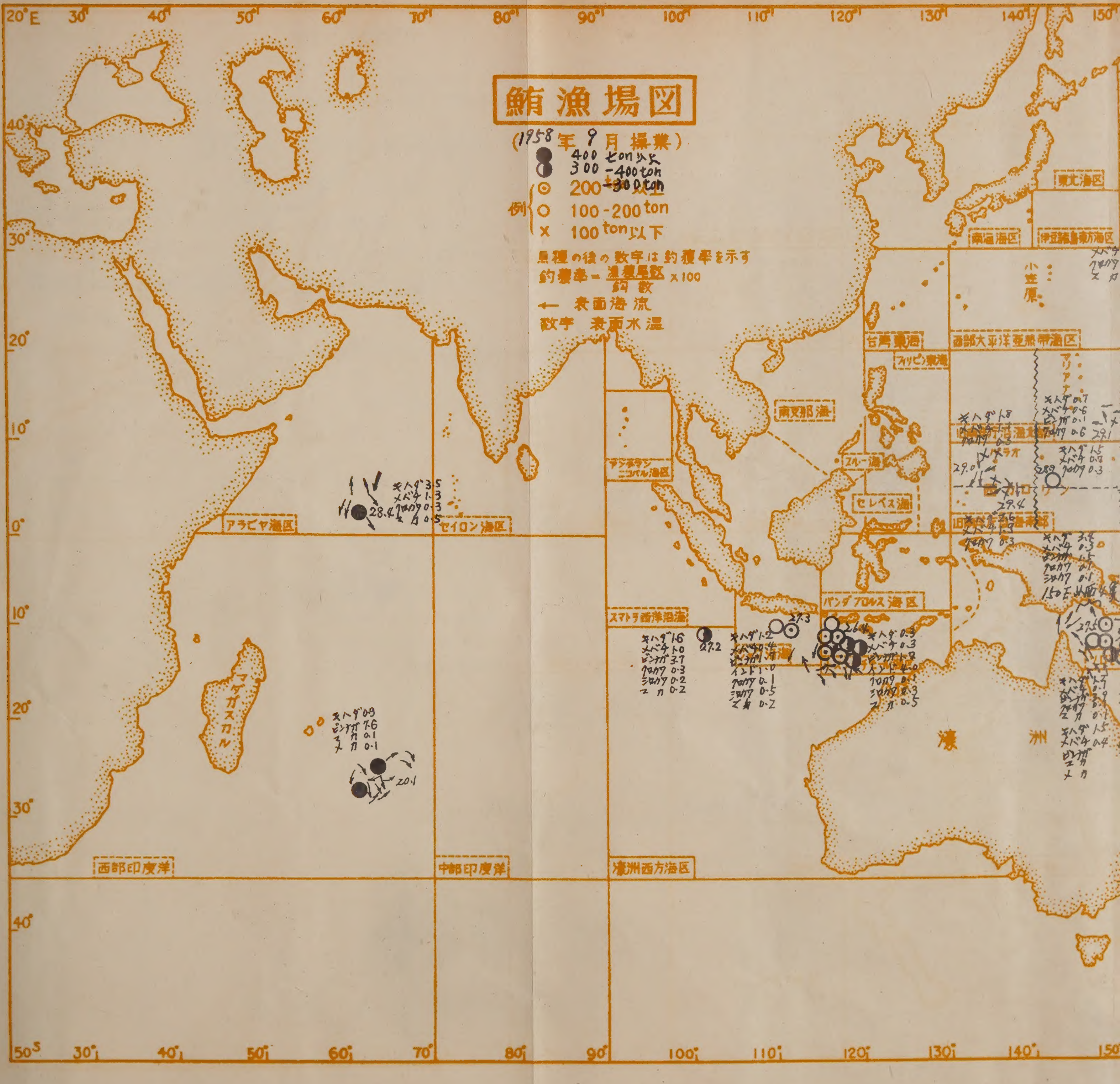
其の他 ディーゼル機関の排気利用による小型船用 造水装置

川崎重工業株式會社

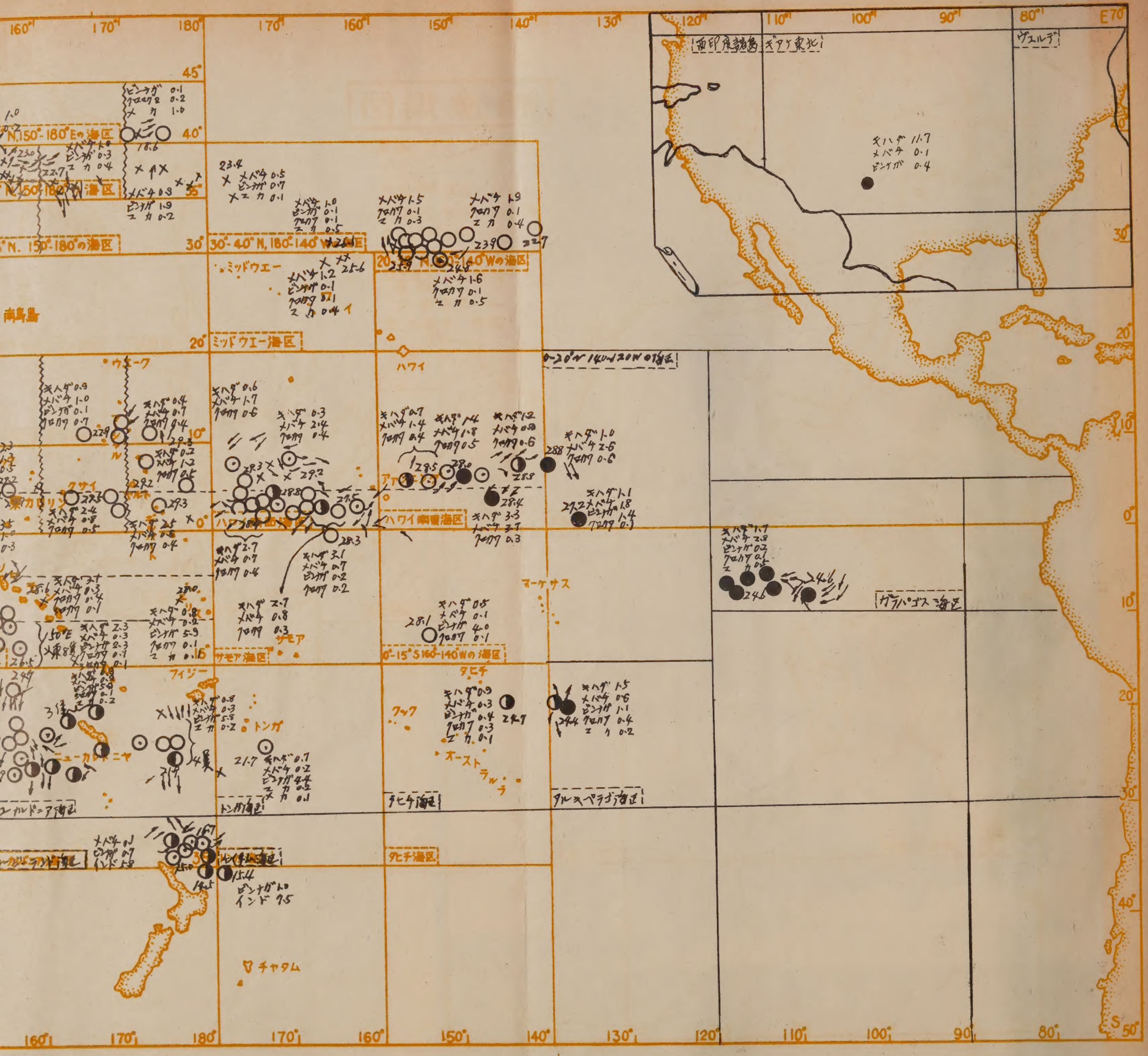
神戸市生田区東川崎町二丁目一四(電)湊川(5)7531

東京支店　東京都港区芝田村町一丁目(日比谷ビル)(電)(59) 6101

(本紙名記入の上御一報下さればカタログ御送附致します)



鮪漁場図
(1958 年 9 月 操業)
例
400 ton 以上
300 -400 ton
200-300 ton
100-200 ton
100 ton 以下
魚種の後の数字は釣獲率を示す
釣獲率 = 漁獲尾数 / 鈎数 × 100
← 表面海流
数字 表面水温
アラビヤ海区
セイロン海区
アンダマン ニコバル海区
スマトラ西洋沿海
南支那海
スルー海
セレベス海
バンダ フロレス海区
台湾東海
フィリピン東海
西部大平洋亜熱帯海区
東北海区
南海海区
伊豆諸島東方海区
小笠原
マダガスカル
濠洲
西部印度洋
中部印度洋
濠洲西方海区
キハダ 3.5
メバチ 1.3
クロカワ 0.3
28.4
キハダ 1.6
メバチ 1.0
ビンナガ 3.7
クロカワ 0.3
シロカワ 0.2
27.2
27.3
20.1
キハダ 0.9
ビンナガ 7.6
20°E
30°
40°
50°
60°
70°
80°
90°
100°
110°
120°
130°
140°
150°
40°
30°
20°
10°
0°
10°
20°
30°
40°
50°S



N.150°-180°Eの海区
N. 150°-180°の海区
30°-40°N, 180°-140°W海区
20°-30°N 180°-140°Wの海区
ミッドウエー
ミッドウエー海区
南鳥島
ウエーク
ハワイ
ハワイ南東海区
マーケサス
サモア
サモア海区
0°-15°S 160°-140°Wの海区
タヒチ
クック
オーストラル
フィジー
トンガ
ニューカレドニア
タヒチ海区
チャタム

1958年・9月に於ける鮪漁場の漁況と海況

（委託調査船185隻の資料に依る）

Fishing and Sea Condition of Tuna Fishing Grounds in September 1958

(By the data collected from the 185 appointed boats)

1 調査の概要

1958年9月における調査船は、総数185隻で夏季より増加しつつあり、これを調査港別にみると、三崎74, 東京80, 燒津31であつて、そのうち体長測定船数は50である。調査海区数は31であり、8月に比較して、太平洋南東部、同東経および西経北部、東経南部、東部印度洋の諸海区の調査船が増加している。

2 漁況の概要

（キ　ハ　ダ）

0—20°N, 140—120°W の海区とガラパゴス海区においては、好漁から低下し始めたが、後者はなお好漁期にあると思われ、アルキペラゴ海区ではやや好漁、ハワイ南東海区 5°N以北は低下が続き、5°N以南の釣獲率は、8月より増加して好漁、南西海区においては、5°N以北は不漁となり、5°N以南はまだ好漁の後期にある。0—15°S, 160—140°W の海区では、南部で低率、タヒチ海区北東部も比較的低い。サモア海区北東部は好漁後期、トンガ海区中西部は昨年同期と同程度の率で低く、南洋北部ではマーシャル附近が比較的好漁である。南洋南部諸海域はおおむね好漁、ソロモン海区10—15°S東部はやや好漁、ニユーカレドニア海区においては、東部低率、西部がやや好漁である。小スンダ・チモールおよびジヤワ沿海海区は不漁、濠洲西方海区は好漁であつた。アラビア海区南部は好漁、西部印度洋ロドリゲス島南方海域では極めて不漁、ギアナ東北海区南部は依然として好漁である。

（メ　バ　チ）

0—20°N, 140—120°Wの海区はなお好漁、ガラパゴス海区南西部は8月と同じくやや低く、30—40°N, 180—140°Wの海区とミッドウエー海区とは低率期、ハワイ南東海区は好漁、南西海区 5°N以北はまだやや低く、5°N 以南も低い。0—15°S, 160—140° Wの海区南部は極めて低率、サモア海区北東部は低率となり始め、35—40°N, 150°E—180°の海区は好漁、30—35°N, 150°E—180° の海区南西部も好漁、南洋北部は一般に不漁、南部諸海域は、ギルバート附近を除いて一般に好漁である。ニユーカレドニアニユージーランド両海区はともに低く、小スンダ、ジヤワ沿海、濠洲西方各海区においても不漁であつた。アラビア海区南部、西部印度洋海区南東部も好漁が得られていない。

（ビ　ン　ナ　ガ）

アルキペラゴ海区はやや好漁、30—40°N, 180—140°Wの海区、ミッドウエー海区は不漁、0—15°S, 160—140°Wの海区南部では高率、タヒチ、サモアは低く、トンガ海区中西部は好漁後期、チヤタム北西部はまだ低率である。35—40°N, 150°E—180°の海区では東部が好漁で、30—35°N, 150°E—180°の海区西部は不漁であつた。ソロモン海区南西部は好漁後期で、ニユーカレドニア海区は極めて高く盛漁、ニユージーランド海区は、北東部においてまだやや低い。小スンダ・チモール、ジヤワ沿海、濠洲西方の三海区は、いづれもやや好漁の程度である。西部印度洋海区ロドリゲス島南方ではいちじるしい高率が得られた。

（インドマグロ）

チヤタム海区において好漁となり、ニユージーランド海区は好漁後期、小スンダ・チモール海区は盛漁、ジヤワ沿海は低下している。

（クロカワ、シロカワ）

クロカワは0—20°N, 140—120°Wの海区においてはやや好漁、ガラバゴス海区は低率となり、アルキペラゴ海区北西部はやや低く、ハワイ南東5°N以北は好漁、ハワイ南西5°N以北および以南は好漁後期である。0—15°S, 160—140°Wの海区南部は低率タヒチ海区も低く、サモア海区は低調、トンガ海区も低率である。南洋北部は一般にやや好漁、南洋南部も一般に好漁、ニユーカレドニア海区ではまだ低く、ジヤワ沿海濠洲西方海区も低率である。アラビア海区南部、西部印度洋海区南東部においても不漁であつた。

シロカワは、ニユーカレドニア海区においてはまだ不漁、小スンダ・チモール海区はやや低く、ジヤワ沿海は好漁、濠洲西方海区も比較的好漁である。

（マ　カ　ジ　キ）

ガラバゴスおよびアルキペラゴの両海区は好漁、30—40°N, 180—140°Wの海区は好漁が得られ、20—30°N, 160—140°Wの海区およびミッドウエー海区においても高率、タヒチ海区とトンガ海区もアルキペラゴ程度の好漁、35—40°N, 150°E—180°の海区、30—35°N, 150°E—180°の海区は8月から好漁、ニユーカレドニア海区は好漁となり始め、小スンダ・チモール海区も好漁となつた。ジヤワ沿海、濠洲西方海区、アラビア海区も同様で、特にアラビア海区は高率であつた。

3　各海区の漁況と海況

A．赤道以北140°W以東の漁場

（0—20°N, 140—120°Wの海区）

この漁場における9月の調査海区は、0—20°N, 140—120°Wの海区のみで、8月とほぼ同様の漁場でそれぞれ1隻を調査している。5°N, 135°W附近では、南東方向に流れる弱い海流がみられている。（漁場圖参照）

（キ　ハ　ダ）

初夏以來続いた盛漁から、9月は減少して1.06となり、この海区としては不漁、冬

の不漁期に向つている。5°N以北と以南の漁場による釣獲率の差は、ほとんどみられなかつた。（漁場圖參照）

体長測定尾数は少いが、魚体は從來と同じく大型である。

（メバチ、ビンナガ）

メバチは、北方漁場で減少を開始し、海区平均釣獲率も2.25と低下したが、赤道附近では8月より僅かながらかえつて増加している。

9月には、この海区のビンナガが0°, 135°E附近で1.41を示し、この海区としては好漁である。

メバチの体長組成は、151—160cm にモードがあつて7月と同様であり、8月の5°N 135°W附近より大型であつた。

（クロカワ）

この海区のクロカワは盛漁期にあり、7, 8月と同様に赤道附近は低率、5°N, 140°W附近の海域は0.61と高率を示した。

体長組成をみると、調査尾数は少数であつたが、181—190cm と 221—230cmとにモードがみられ、組成は昨年夏季と殆んど変らないが、やや小型の傾向にある。

B. 赤道以南140°W以東の漁場

（ガラパゴス海区、アルキペラゴ海区）

ガラパゴス海区南西部における調査船は、8月に比較して激増し大型船7隻、アルキペラゴ海区北西部では2隻が調査されている。ガラパゴス海区は北西～南西流が多くアルキペラゴ海区北西部の海流は非常に錯雑しているようである。

（キハダ）

ガラパゴス海区南西部のキハダは、初夏から釣獲率の増加が甚だしく、9月は1.70となつて8月より半減している。増減を続けながら、次第に好漁後期に入るであろうアルキペラゴ海区北西部は、1.46でこの海区としては高率であつた。

ガラパゴス海区におけるキハダは從來通り大型、0—20°N, 140—120°W の海区よりやや大きい。

（メバチ、ビンナガ）

ガラパゴス海区南西部のメバチは、8月とほぼ同様でこの海区としては低く、アルキペラゴ海区北西部では、0.59を示してこの海区としては好漁であつた。

ビンナガは、ガラパゴス海区で8月と同じく0.15の低率、アルキペラゴ海区では1.14とやや好漁の程度で、昨年冬季の 2.0 近い率は得られていない。

ガラパゴス海区のメバチは、体長組成のモードが 161—170cm にあり、從来と同形で変化なく大型である。

（クロカワ、マカジキ）

クロカワは、ガラパゴス海区では0.12と低くなり、アルキペラゴは0.42の率で、昨年と同様の変化を示すならば、冬季に向うに從つて漸次高率となろう。

マカジキは、ガラパゴス南西部では7月の低率から倍増、4, 6月と同様の率となつ

た。アルキペラゴ海区も同率で、この海区としては高率である。

ガラパゴス海区におけるクロカワの体長組成をみると、魚体測定尾数は少いが 191—200cmにモードがあつて、従来のように大型魚が多くみられない。

C．赤道以北180—140°Wの漁場

(30—40°N, 180—140°Wの海区、20—30°N, 160—140°Wの海区、
ミツドウエー海区、ハワイ南東海区 5°N以北および以南
ハワイ南西海区 5°N以北および以南)

9月におけるこの漁場の調査船総隻数は54で、30—40°N, 180—140°Wの海区では、この海区の調査船の半数以上13隻が、160—150°Wの30°N線北側で操業し、20—30°N 160—140°Wの海区の1隻はその南側、ミツドウエー海区の3隻は、170—160°Wの30°N線南側でそれぞれ操業している。ハワイ南東海区 5°N以北の6隻と以南の1隻は、それぞれ5°N線の北側と南側とで調査され、ハワイ南西海区 5°N以北の6隻も5°N線附近、5°N線以南の海域では、18隻が調査された。

各海区の海流については、漁場圖を參照されたい。

(キ　ハ　ダ)

30—40°N, 180—140°Wの海区、20—30°N, 160—140°Wの海区、ミツドウエー海区は不漁で低く、ハワイ南東海区 5°N以北の海域は好漁後期で低下中であるが、中央部の150°W附近が最も高率、5°N以南ではなお好漁が続き、ハワイ南西海区 5°N以北も好漁を終つて低率期に入り、同海区 5°N以南の海域では、まだ高いが好漁後期と思われる。ハワイ南東海区 5°N以北の海域では、101—110cm に第1モード、131—140cm に第2モードがあらわれ、従来より小型が多くなり、南西海区 5°N以南では、121—130cmにモードがみられて、従来と同様である。

(メバチ、ビンナガ)

30—40°N, 180—140°Wの海区では不漁期であるが、150—140°W の海域はやや好漁で、東方漁場寄りに順次高率となつている。(漁場圖參照) 20—30°N, 160—140°Wの海区も不漁期にあり、北部の附近は150°W附近は、30—40°N, 180—140°W の海区東方漁場と同様の釣獲率であるが、この海区としては低く、ミツドウエー海区北東部のメバチも不漁期である。ハワイ南東海区 5°N以北はなお好漁で、キハダと同じく中央部の150°W附近が最も高い。同海区 5°N以南北東部の1隻は、9月となつて急激に釣獲率の増加をみて好漁である。ハワイ南西海区 5°N以北の海域は不漁期と思われるがやや高く、特に中央部の170°W附近は2.40を示して好漁である。50°N以南では、7月からの低減過程が続き、0.66と低下した。漁場の東西位置による漁獲の差は甚だしくない。(漁場圖參照)

ビンナガは、30—40°N, 180—140°Wの海区西部の35°N附近で好漁期となつたが、0.69とまだ低い。

「メバチの体長組成をみると、30—40°N, 180—140°W の海区とミツドウエー海区は同形で、ともに141—150cmにモードがみられて大型、ハワイ南東 5°N以北、南西 5°N

以北および以南では、おおむね従来と変らず北方漁場より小型である。

ビンナガの体長測定尾数は、30—40°N, 180—140°Wの海区では極めて僅か、ミッドウエー海区も少数であつたが、111—120cmの体長階級のものが半ばを占め、従来より大型であつた。」

（クロカワ）

ハワイ南東海区5°N以北の海域における9月のクロカワは、なお続いて好漁期にあり、東方寄りに高率となつて、（漁場圖参照）西寄りに高率であつた7, 8月の傾向とは異なつている。5°N以南の海域では以北よりやや低いが、まだ好漁期と思われる。ハワイ南西海区5°N以北でも好漁期にあつて、8月とほとんど変らず、5°N以南の海域は、去年より早く好漁期を終つて低率期に向いつつあるようである。

30—40°N, 180—140°Wの海区のクロカワは大型であるが、8月よりやや中型のものが増加して、モードは211—220cmにみられる。ハワイ南東海区5°N以北5°N附近では161—170cmにモードがあり、同南西海区5°N以北および以南では、161—170cmに第1モード、131—140cmに第2モードがあつてそれぞれ従来の傾向と同様であるが、南西海区の両海域では小型魚がやや増加している。

（マカジキ）

30—40°N, 180—140°Wの海区のマカジキは、好漁期にあつて、特に170—160°Wおよび150—140°Wの海域は高率となつた。20—30°N, 160—140°Wの海区北部とミッドウエー海区北東部においても高率である。

マカジキの体長組成は、30—40°N, 180—140°Wの海区においては111—120cmの体長範圍に42.1%がみられ、第2モードは141—150cmにあつて昨年同期より小型魚が増加している。ミッドウエー海区では、131—140cmのものが55.4%を占みて一昨年10月と同形である。

D．赤道以南180—140°Wの漁場

（0—15°S, 160—140°Wの海区、タヒチ海区、
サモア海区、トンガ海区、チヤタム海区）

0—15°S, 160—140°Wの海区においては、南西部の1隻、タヒチ海区ではタヒチ島南東方の1隻、サモア海区は8月と同様の漁場で1隻、トンガ海区では、トンガ諸島南方で2隻、さらにチヤタム海区の北西部、ニユージーランド島の東方海域で1隻、総計6隻を調査した。8月に比較すると、サモア海区北東部の船数が激減し、0—15°S 160—140°Wの海区、タヒチ、チヤタムの3海区が新しく調査されている。

（キハダ）

0—15°S, 160—140°Wの海区にては、南部で0.53と極めて不漁、この海区にては従来みられなかつた低率である。8ヶ月ぶりに調査されたタヒチ海区北東部においては0.87とやや低率、サモア海区は盛漁を過ぎたが、なお好漁期にあつて高率、ハワイ南西海区5°N以南の海域よりも高い。トンガ海区では、一昨年11月から釣獲率が1.0を越えたことがなく、従来の高率が得られない。9月の中西部においては、7月から次第

に増加して僅かに0.70を示すにとどまつた。チヤタム海区においては、キハダは全く不漁で漁獲皆無である。

サモア海区北東部赤道附近においては、8月に141—150cmにあつたモードが、131—140cmとなり、8月のやや大型の傾向から旧型に復している。

（メ バ チ）

0—15°S, 160—140°Wの海区におけるメバチは、南部の漁場で高率が得られず、0.13と極めて低い。タヒチ海区北西部の漁場では、從來と同様の率で0.31を示し、この海区としては好漁である。サモア海区では、7月の好漁から低減しつつあり、トンガ海区においては好漁期直前でまだ低率、チヤタム海区においては、キハダのみならず、メバチも極めて不漁である。

タヒチ海区における体長組成をみると、131—140cmに組成の山があつて小型が多いようである。チヤタム海区の調査尾数は3尾に過ぎず、他海区では調査出來なかつた。

（ビンナガ、インドマグロ）

サモア海区におけるビンナガは、初夏の好漁を終つて不漁期に入り、8月と同じく釣獲率0.16を示している。トンガ海区トンガ諸島南方海域においても、7月の盛漁から低減過程に入つているが、9月は4.38の率でなお好漁の後期にある。チヤタム海区のビンナガは、初漁期にあると思われ、この海区としてはまだやや低く釣獲率1.01である。

チヤタム海区においては、インドマグロが好漁となり始め、既に7.54を示して高率である。12～1月に至るまで漸次増加し好漁が続くであろう。

チヤタム海区におけるインドマグロの体長組成をみると、111—120cmと141—150cmとに2つのモードがあつて、やや大型に恢復している。

（ク ロ カ ワ）

0—15°S, 160—140°Wの海区におけるクロカワは、南部で極めて低率、0.08を示しているに過ぎない。年末まで高率は望めないであろう。タヒチ海区においては、好漁前期となつて0.30，今後は次第に冬季の盛漁に入るであろう。サモア海区北東部赤道附近では、8月より僅か上昇したがこの海区としては低く、トンガ海区は低率で好漁期前と思われる。チヤタム海区では、クロカワは周年みられない。

タヒチ海区におけるクロカワの体長組成は、昨年11月頃に比較するとやや小型となつてきたようである。

（マ カ ジ キ）

タヒチ海区におけるマカジキは、0.14を示してこの海区としては高率となつた。トンガ海区のマカジキは0.21と好漁、冬季に向い続いて好漁が期待される。

体長組成をみると、タヒチ海区においては151—160cmに32.7％のモードがあり、昨年9,10月に比してはるかに小型である。

E. 北部太平洋漁場

（40—45°N, 150°E—180°の海区、
35—40°N, 150°E—180°の海区、
30—35°N, 150°E—180°の海区）

この漁場における調査船は、9月に入つて増加がいちじるしく、特に35—40°N, 150°E—180° の海区における小型船の激増がめだつている。同海区中部および西部海域の海流については、漁場圖を参照されたい。

（キ　ハ　ダ）

この漁場におけるキハダは周年低率、35—40°N, 150°E—180°の海区で僅かに0.03が得られている。

35—40°N, 150°E—180° の海区における体長測定尾数は非常に少いが、魚体は大型で昨年10月とほぼ同型の組成を持つている。

（メバチ、ビンナガ、クロマグロ）

メバチは40—45°N, 150°E—180°の海区170°E—180°の海域においては漁獲皆無、35—40°N, 150°E—180°の海区は好漁期となり、170°E—180°の海域は8月より低率となつているが、各海域とも1.0程度の釣獲率で好漁である。30—35°N, 150°E—180°の海区150—160°Eの海域南部は、8月2.30の高率からやや低下したが、1.81でこの海区としてはなお高い。

ビンナガは、35—40°N, 150°E—180°の海区で好漁期に入り始め、170°E—180°の海域は特に急増がいちじるしいが、西方海域は極めて低い。

クロマグロは、40—45°N, 150°E—180°の海区170°E—180°の海域で0.20の好漁であつた。

メバチの体長組成は、35—40°N, 150°E—180°の海区において、141—150cmに第1モード、111—120cmに第2モードがあり、昨年秋に比較して大型であるが、おおむね従来の傾向と同様であつた。

（マ　カ　ジ　キ）

35—40°N, 150°E—180°の海区は、好漁初期で平均釣獲率0.25, 160—170°E の海域が最も高く0.36であり、この海区としては更に上昇が見込まれている。30—35°N, 150°E—180°の海区においては、南西部の30°N, 155°E附近の1隻が0.24の好漁を得て、例年より好漁期がやや早い。

35—40°N, 150°E—180°の海区のマカジキの体長組成は、121—130cm にモードがあつて小型魚が多く、161cm以上のものは全くみられなかつた。

F. 旧南洋庁沿海漁場

（南洋北部170°E以西および以東、南洋南部170°E以西および以東）

南洋北部の調査船は総計6隻、いづれも10°N線の北側で操業している。そのうち1隻はマリアナ南東方3隻はマーシャル附近、2隻はマーシャル東方の 170°E—180° の海域で調査された。一方、南洋南部においては、130—140°E, 150—160°Eの海域で調査船が増加し、海区総計は19隻であつた。

調査海域、漁場水温、海流については、漁場圖参照のこと。

（キ　ハ　ダ）

北部140—150°Eの海域においては、南東部で0.65が得られ、この海域としては好漁160—170°Eの海域南東部におけるキハダも0.91を示して、この海域としては高率である。南部では、170°E—180° の海域を除き、各海域ともおおむねまだ好漁期にある。従来の傾向と同じく、5°N以南が以北より高率である。

南洋南部170°E以西では、101—110cmにモードがあつて6〜8月よりやや小型、170°E以東においては、121—130cmにモードがみられた。

（メ　バ　チ）

北部のメバチは3海域とも低く、南部においてはおおむねやや好漁の程度、150—160°Eと170°E—180°の海域では、5°N以北が以南より高率であつた。

この漁場における体長組成調査は、南部170°E附近の以西、以東について実施した両海域とも、組成の山（モード）は131—140cmにみられ、従來に比較して大きな変化はない。

（ク　ロ　カ　ワ）

北部のクロカワは、140—150°Eと160—170°E の海域においてはそれぞれ好漁で、170°E—180°では好漁後期となつて低い。南部では、東方海域が好漁期であり、8月と同じく5°N以北が以南より高率である。

南洋南部165—170°Eおよび170—175°Eの海域における体長組成は、従来とほぼ同形であるが、8月には、後者で141—150cmと161—170cmとにあつたモードが、両海域とも151—160cmにみられている。

G. ソロモン以南漁場

（ソロモン海区、ニューカレドニア海区、ニュージーランド海区）

ソロモン海区における調査船数は、8月に比較して南西部海域で激増し、5—10°Sの海域では、エリス諸島附近とソロモン諸島中部附近でそれぞれ1隻、10—15°Sでは、西部のヨーク半島東側海域で14隻、計16隻であつた。ニューカレドニア海区においては、海区北西部で2隻、ニューカレドニア島周辺から濠洲大陸にかけてのさんご海で14隻、同島東方、フイジー南西方の海域で5隻の計21隻、更にニュージーランド海区のノース•アイランド北東方海域では、8月より倍増して10隻となつている。

ニューカレドニア海区の25—26°S, 158—160°Eの海域で操業した第7昭福丸漁撈長伊藤定規氏の報告によれば、この海域における水温は20.3—22.2°C, 海流は、流向、流速とも一定せず不規則な大渦流を作つているようである。（漁場圖および会員レポート参照）他海域、他海区の水温、海流については、漁場圖を参照されたい。

（キ　ハ　ダ）

ソロモン海区5—10°Sのキハダは、ソロモン諸島中部(160°E)附近で3.05と好漁であるが、この海域としては高率と云えない。東方のエリス諸島近海では低率で0.77, 10—15°Sの海域西部では8月より増加、150°E以西のヨーク半島寄りの4隻が高く3.44, 150°

E以東の8隻はやや低い。ニューカレドニア海区は低率期となつているが、海区南西部のキハダが最も高く、ニューカレドニア島周辺および同島東方海域は不漁である。ニュージーランド海区北東部は漁獲皆無であつた。（漁場圖参照）

体長組成をみると、ソロモン海区5—15°S, 150—160°Eでは第1モードが111—120cmにあつて昨年と同様に比較的小型のものが多く、第2モードは131—140cmにあるニューカレドニアとニユージーランド両海区のモードは、131—140cmにみられてソロモン海区より型が大きく、おおむね従来と同型である。

（メ　バ　チ）

ソロモン海区5—10°Sの海域は高率が得られず、160°E附近が東方のエリス附近よりやや高い。10—15°Sでは、7月の中部における釣獲率0.27から8, 9月と低減しつつあり、9月の釣獲率は西方よりに高い。ニューカレドニア海区は各海域とも低率で、僅かに南西部で0.37が得られているに過ぎない。ニューカレドニア海区東部も低率である。（漁場圖參照）

ソロモン海区5—15°S, 150—160°Eの海域のモードは111—120cmにみられて従来とほぼ同型、ニューカレドニア海区では、131—140cmにモードがあつて、昨年末以來の組成に比較してやや大型の傾向であつた。ニュージーランド海区にあつては、111—120cmのものが41.6%を占めて、モードは従来とおおむね同様であつた。

（ビ　ン　ナ　ガ）

ソロモン海区5—10°Sの海域では、東部のエリス諸島附近の1隻が5.90と極めて高率、10—15°S, 150°E附近は低減過程にあつてやや低く、150°E以西より以東が好漁であつた。ニューカレドニア海区は、例年より遅く好漁期にあつて各海域とも高率、海区北西部が最も低い。ニュージーランド海区北東部では、8月よりやや増加して上昇過程にあるようである。

体長組成をみると、ソロモン海区南東部において91—100cmに70.6%のモードがみられ、従来と同形である。

（インドマグロ）

ニュージーランド海区北東部のインドマグロは、好漁期から終漁期に入りつつあり5.75と8月より激減した。

体長組成は、111—120cmにモードがあつて22.2%, 8月と同様であり、昨年12月よりやや小型となつている。

（クロカワ、シロカワ、マカジキ）

クロカワは、ソロモン海区5—10°S, 160°E附近で0.35と好漁であつたほかは低率、他の2海区は不漁である。

シロカワは、ニューカレドニア海区において9月に入つても0.02と低率、まだ好漁期とならない。

ニューカレドニア海区のマカジキは、ニューカレドニア島周辺で0.23, 海区南西部で0.33とやや増加をみせて好漁になり始めた。

クロカワの体長組成をみると、ソロモン海区 5—15°N, 151—156°E では、161—170 cmに第1モード、141—150cmに第2モードがあつて従来に変らず、ニューカレドニア海区全域では171—180cmにモードがみられて、200cm前後の比較的大型のものが減少している。

ソロモン海区9月のシロカワは、251cm以上に第1モードがあつて20.7%, 141—160cmのものが34.4%を占めて小型が多くみられ、ニューカレドニア海区のマカジキは161—170cmにモードがあらわれ、昨年11月に比較して小型になつている。

H. 東部印度洋漁場

(小スンダ•チモール海区、ジヤワ沿海、濠洲西方海区)

この漁場における調査船は、小スンダ•チモール海区西部海域で急増して11隻、他の2海区では、8月とほぼ同様の漁場で、ジヤワ沿海2隻、濠洲西方海区1隻が調査された。漁場水温および海流については、漁場圖を参照されたい。

(キ　ハ　ダ)

小スンダ•チモール海区のキハダは、低率期にあつて不漁、ジヤワ沿海中央部は、8月より急減して1.24となり、この海区としては不漁となつた。濠洲西方海区北部中央の1隻は、1.56を示して最近のこの海区としては高率で、秋季から冬季の好漁期に入るようである。

小スンダ•チモール海区における体長組成は、121—130cmにモードがみられて従来と大きな変化はなく、調査尾数の少かつたジヤワ沿海では、101—110cmに34.7%のモードがあるが、111—120cmのものも33.7%を占めて、おおむね従來と同様の傾向を示している。

(メ　バ　チ)

小スンダ•チモール海区西部海域では不漁である。ジヤワ沿海中央部も低率でありこの海区における一昨年までの秋季の高率が、昨年から得られていない。濠洲西方海区では、昨年9月の漁場の北西方で昨年とほぼ同率の漁獲があり、好漁期と思われる

小スンダ•チモール海区における体長組成は、121—130cmにモードがみられて、従来とほぼ変らないが、やや小型の傾向がうかがわれる。

(ビンナガ、インドマグロ)

小スンダ•チモール海区におけるビンナガは、好漁後期にあると思われ、4月の高率から低下しているが、まだやや好漁であり、ジヤワ沿海10°S以南でもやや好漁、濠洲西方海区北部中央は、夏季の好漁から低減して好漁後期にある。

インドマグロは、小スンダ•チモール海区で秋の好漁3.98, ジヤワ沿海にては8月の高率から急減し、濠洲西方海区は、低率期を終つて次第に好漁期に入るであろう。

小スンダ•チモール海区のビンナガの体長組成は、2, 3, 4 月に比較してやや大きく101—110cmにモードがみられ、インドマグロの体長組成は、151—160cm にモードがあつて2月以來の傾向と変らない。

（クロカワ）

小スンダ・チモールおよびジヤワ沿海のクロカワは低率、濠洲西方海区北部のクロカワも不漁である。

小スンダ・チモール海区における体長組成は、161—170cmに第1モード、181—190cmに第2モードがあり、161—190cmのものが46.6%を占めて従来とほぼ同形である。

（その他のカジキ類）

シロカワは、小スンダ・チモール海区でやや好漁、ジヤワ沿海海区は0.45を示し、極めて好漁である。濠洲西方海区もシロカワの好漁期に入り、夏から増加を続けて高率0.45となつた。

マカジキは、小スンダ・チモール海区で0.49と高く、ジヤワ沿海では、好漁期となつたが0.16と低い。濠洲西方海区においても、北部で好漁期に入つているが、高率とならず、0.20であるに過ぎない。

小スンダ・チモール海区のシロカワの体長組成は、141—150cmに38.3%のモードがあり、ソロモン海区9月の組成と同様に小型魚が特に多い。

小スンダ・チモール海区におけるマカジキは、131—140cmのものが53.5%に達し本年1月の組成に比較してやや小型の傾向にある。

I. 中西部印度洋漁場

（アラビア海区、西部印度洋海区）

8月と同じく上記2海区が調査されていて、アラビア海区では、8月の漁場よりやや西寄りの60° E, 赤道附近で1隻、西部印度洋海区では、8月よりやや南寄りで2隻が操業している。漁場水温、海流には、8月と特に異なつた傾向はみられない。（漁場圖参照）

（キハダ）

アラビア海区南部60°E附近のキハダは好漁期となり、8月から増加して秋季の高率になつている。西部印度洋海区南東部では、8月とほぼ同じく低率である。

（メバチ、ビンナガ）

アラビア海区のメバチは、漁獲の減少がみられて1.26となり、西部印度洋海区南東部は低率で0.04と極めて不漁である。

ビンナガは、西部印度洋海区南東部で7.59と極めて高率、8月より更に好況を呈している。

（クロカワ、マカジキ）

クロカワは、アラビア海区南部で8月より減じて0.30, 同漁場のマカジキは、0.46と急増している。

J. 大西洋漁場

（ギアナ東北海区）

大西洋における調査船は、9月はギアナ東北海区の1隻のみであり、海区南部の50°

W附近で操業している。この漁場では、水温、海流は調査できず、また、体長組成も調査できなかつた。

(キ　ハ　ダ)

この海域のキハダは、7月とほぼ同率で11.72を示し、好漁期にあると思われる。

(メバチ、ビンナガ、その他)

メバチは低率0.12であり、ビンナガは 5, 7 月より低減して不漁、その他の魚種については調査されていないが、いづれも低率の見込みである。

この資料は、南海区水研、神奈川県水試が依託調査船185隻より編集し、これを統計的に分離したものである。

會員レポート

会員　伊　藤　定　規　(オ7昭福丸漁撈長)—(オ15号)—

ニューカレドニア海区Cepel Bank西側海域における9—10月の海況と漁況

本船は、昭和33年9月19日より10月11日まで、23回に亘つて上記海域で操業した。

漁場の表面水温は20.3—22.2°Cであつたが、21.1—21.2°Cの水帯の水色良好な海域にビンナガとマカジキが多く、21.3°Cの以下の海域では、ビンナガが少くマカジキが多い。21.3°C以上の海域では、逆の現象がみられた。

漁場の海流の流向、流速は、附圖の如く一定せず、25—26°S, 158—160°Eの範圍に大きな渦流があるようで、流速は0.3—1.21ノットであつた。

海区には黒鳥が多く、鰹群も相当見られた。

9月23日、Bank の上（水深約70m）で浮縄を15mとして操業し、マカジキ27本を漁獲したが、その後は縄が瀬にかかり、マカジキも漁獲されなかつた。マカジキの $\frac{3}{4}$ は卵を持つていたが、熟卵ではない。

昭和28年以降、この海域における10—12月頃の操業を続けているが、例年に比較して今年は餌料となるべき、いか、あじ等の小魚が少く、各魚種とも胃は空であつた。

この海区の漁獲は、平均800貫/日であつた。

月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁場	操業区域	調査隻数	体長測定船数	水温 (C°)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数	ま きはだ	 めばち
0—20N 140—120W	0—8N 141—130W	2	1	26.9 29.0		34	14,042	62,040	659 1.06	1397 2.25
ガラパゴス	2—9S 120—105W	7	2	22.6 25.4		175	74,672	338,958	5768 1.70	9437 2.78
アルキペラゴ	18—22S 141—134W	2	0	23.3 25.6		41	17,236	68,944	1008 1.46	408 0.59
30—40N 180—140W	30—39N 180—139W	19	1	21.6 27.8		414	148,546	640,038	25	9613 1.51
20—30N 160—140W	28—30N 160—144W	1	0	23.6 25.9		28	8,931	35,724	6 0.02	576 1.61
ミッドウエー	28—30N 168—161W	3	1	24.9 26.4		69	24,316	101,064	25 0.02	1232 1.21
ハワイ南東 (5°N以北)	4—8N 162—140W	6	4	26.6 29.4		116	45,906	210,275	2581 1.23	3355 1.60
ハワイ南東 (5°N以南)	3—4N 147—144W	1	0	28.0 28.7		13	5,350	21,400	704 3.29	783 3.66
ハワイ南西 (5°N以北)	4—8N 179—166W	6	2	28.2 30.0		98	36,448	161,964	759 0.47	3185 1.97
ハワイ南西 (5°N以南)	1S—7N 179E—160W	18	6	26.9 30.0		303	115,700	504,650	13413 2.66	3343 0.66
0—15S 160—140W	9—14S 158—149W	1	0	27.5 28.6		26	9,360	46,800	249 0.53	59 0.13
タヒチ	18—23S 148—141W	1	1	23.8 25.5		24	8,110	40,550	354 0.87	127 0.31
サモア	0—2S 167—164W	1	1	27.6 28.9		17	6,508	30,983	965 3.11	205 0.66
トンガ	21—27S 178—167W	2	0	19.7 23.8		40	14,250	75,590	528 0.70	128 0.17
チヤタム	35—37S 180—178W	1	1	14.6 16.2		19	5,789	26,051		3 0.01
40—45N 150E—180	40—42N 170—178E	3	1	16.8 20.4		59	17,532	105,192		
35—40N 150E—180	35—40N 152E—180	20	6	19.6 25.8		299	86,118	341,842	88 0.03	3357 0.98
30—35N 150E—180	31—32N 151—157E	1	0	24.6 25.2		14	5,318	21,272	1	384 1.81
南洋北部 (170°E以西)	11—13N 148—169E	4	0	28.8 30.1		39	13,110	59,140	486 0.82	511 0.86
南洋北部 (170°E以東)	11—12N 170—178E	2	0	28.9 29.6		9	3,560	17,800	69 0.39	131 0.74
南洋南部 (170°E以西)	0—9N 133—172E	14	1	28.0 30.0		186	63,078	274,926	6307 2.29	3010 1.09
南洋南部 (170°E以東)	1—11N 170—179W	5	1	28.6 29.8		43	16,000	65,960	719 1.09	628 0.95

（1958年9月 操 業 分）

（別表1） A

ぐろ			かじき					かつお	雑	さめ	計	記事
びんなが	くろ鮪	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしょう					
413 0.67			230 0.37	8 0.01	15 0.02	25 0.04				51 0.08	2798	
514 0.15			397 0.12	51 0.02	500 0.15	77 0.02	4	234 0.07	1083 0.32	186 0.05	18251 5.38	
789 1.14			287 0.42	6 0.01	107 0.16	12 0.02			220 0.32		2837	
263 0.04	8		406 0.06	8	1766 0.28	29	30		833 0.13	474 0.07	13455 2.10	
5 0.01			43 0.12		161 0.45		10 0.03		90 0.25		891	
63 0.06			100 0.10	1	403 0.40	5	3		10 0.01		1842	
5	1		1034 0.49	23 0.01	16 0.01	24 0.01	9		350 0.17	111 0.05	7509 3.57	
			53 0.25	5 0.02	4 0.02	7 0.03					1556	
10 0.01			803 0.50	7	21 0.01	12 0.01	8		39 0.02	1	4845 2.99	
148 0.03	2		1488 0.29	35 0.01	30 0.01	95 0.02	53 0.01	95 0.02	204 0.04	658 0.13	19564 3.88	
1887 4.03			39 0.08		21 0.04	1	1				2257 4.82	
179 0.44			123 0.30	8 0.02	57 0.14	8 0.02		13 0.03	62 0.15	48 0.12	979 2.41	
51 0.16			72 0.23	5 0.02	2 0.01	7 0.02	4 0.01	331 1.07	23 0.07	191 0.62	1856 5.99	
3311 4.38		1	20 0.03	5 0.01	158 0.21	36 0.05			235 0.31	213 0.28	4635 6.13	
264 1.01		1965 7.54				1					2233	
64 0.06	206 0.20				1	1056 1.00			23 0.02	1706 1.62	3056 2.91	
1800 0.53			45 0.01		868 0.25	89 0.03	21 0.01	15	226 0.07	2620 0.77	9138 2.67	
			20 0.09		51 0.24				132 0.62	9 0.04	597 2.81	
31 0.05			371 0.63		4 0.01		14 0.02		100 0.17	27 0.05	1544 2.61	
8 0.04			70 0.39		2 0.01	1 0.01		4 0.02	2 0.01		287 1.61	
58 0.02			1031 0.38	16 0.01	11	16 0.01	556 0.20	13	41 0.01	124 0.05	11183 4.07	
6 0.01			311 0.47	6 0.01	3	3	14 0.02		31 0.05	131 0.20	1852 2.81	

漁場	操業区域	調査隻数	体長測定船数	水温 (C°)	流向流速	操業回数	漁具数	鈎数	ま きはだ	めばち
ソロモン	4—17S 144—177E	16	3	24.5 30.0		230	89,269	387,047	9601 2.48	727 0.19
ニューカレドニア	15—29S 151—176E	21	7	18.9 26.4		395	154,021	711,991	9116 1.28	1989 0.28
ニュージーランド	30—37S 173E—180	10	5	14.1 17.9		220	76,073	429,961	80 0.02	550 0.13
小スンダチモール	11—15S 114—120E	11	6	25.4 27.4		191	79,871	359,970	1014 0.28	958 0.27
ジヤワ	9—12S 109—114E	2	0	26.6 28.0		15	6,190	28,740	357 1.24	120 0.42
濠洲西方	11—13S 100—103E	1	0	26.8 27.5		16	6,800	27,200	425 1.56	274 1.01
アラビア	1—4N 59—64E	1	0	27.8 29.0		15	6,750	27,000	953 3.53	339 1.26
西部印度洋	24—28S 58—66E	2	0	19.2 21.9		54	21,049	103,380	957 0.93	42 0.04
ギアナ東北	7—9N 50—47W	1	0			17	7,707	32,298	3785 11.72	40 0.12

盛夏御見舞い
申し上げます
—昭和34年8月—

大洋漁業株式会社
三崎営業所所長 長崎勝平
三崎営業所 神奈川県三浦市三崎町仲崎190番地
電話 三浦(代)2151・2774番
本社 東京都千代田丸ノ内1の4新丸ビル6階
電話 千代田(27)1041・1241番

東貿易株式会社
代表取締役 石関自助
東京都千代田区丸ノ内212 丸ビル
電話(30)4539番

大都魚類株式会社
代表取締役 林誠次
本社 東京都中央区築地5の1
三崎出張所 三崎町仲崎190

三崎無線通信士協会
会長 塩瀬厚
三浦市三崎町花暮(生協ホール内)
電話(三浦)2069番

（別表１） B

ぐろ			かじき					かつお	雑	さめ	計	記事
びんなが	くろ鮪	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしょう					
7969	1		475	451	89	45	235	3	188	68	19852	
2.06			0.12	0.12	0.02	0.01	0.06		0.05	0.02	5 13	
33897	1	3	302	129	1839	393	37	172	742	508	49128	
4.76			0.04	0.02	0.26	0.06	0.01	0.02	0.10	0.07	6.90	
3022	5	24734	2		76	33			23	166	28691	
0.70		5.75			0.02	0.01			0.01	0.04	6.67	
4375		14317	341	956	1761	139	13	4	198	45	24121	
1.22		3.98	0.09	0.27	0.49	0.04			0.06	0.01	6.70	
481		287	18	130	45	1					1439	
1.67		1.00	0.06	0.45	0.16						5.01	
1001		7	72	49	55	7	9	15	66	103	2083	
3.68		0.03	0.26	0.18	0.20	0.03	0.03	0.06	0.24	0.38	7.66	
			81	26	125	11	22			134	1691	
			0.30	0.10	0.46	0.04	0.08			0.50	6.26	
7847			13	28	85	47		4	49	56	9128	
7.59			0.01	0.03	0.08	0.05			0.05	0.05	8.83	
113											3938	
0.35												

暑中御伺　昭和34年盛夏

全　功　丸

奥津漁業株式会社

社長　奥津政五郎

神奈川県三浦市三崎町花暮 182 番地
電話（三浦）２００６番

順光漁業株式会社

代表取締役　水野平吉

神奈川県三浦市三崎町花暮 146 番地
電話（三浦）2058・3221 番

株式会社

山口県漁業公社

三崎事務所

神奈川県三浦市三崎町花暮 141 番地
電話（三浦）２２５０番

孝　勇　丸

孝勇丸漁業生産組合

佐藤孝吉

神奈川県三浦市三崎町東岡3504番地
電話（三浦）２７７１番

月別、漁場別、鮪類体長組成表（1958年9月操業分）

（別 表 2）

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	50 cm以下	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171 cm以上		計	漁獲尾数
きはだ	1	0—20N 140—120W	0—1N 140—130W	15							4 8.2	2 4.1	4 8.2	11 22.4	11 22.4	10 20.4	7 14.3			49 100	321
	2	ガラパゴス	6—9S 120—105W	70								11 6.3	6 3.4	5 2.9	48 27.6	57 32.8	35 20.1	12 6.9		174 100	2993
	1	30—40N 180—140W	30—33N 160—150W	11														1 100.0		1 100	1
	1	ミッドウエー	28—30N 167—164W	19					3 100.0											3 100	3
	3	ハワイ南東 (5°N以北)	4—8N 162—140W	46						12 5.2	74 31.9	36 15.5	14 6.0	45 19.4	31 13.4	18 7.8	2 0.9			232 100	873
	9	ハワイ南西 (5°N以南)	1S—7N 179E—163W	156					4 0.2	36 2.1	197 11.2	390 22.2	413 23.5	375 21.4	275 15.7	53 3.0	5 0.3	7 0.4		1755 100	6837
	1	サモア	0—2S 167—164W	17					1 0.4	16 5.7	30 10.7	53 18.9	72 25.7	76 27.1	25 8.9	1 0.4	3 1.1	3 1.1		280 100	965
	2	35—40N 150E—180	36—38N 153—158E	35								7 20.6	6 17.6	5 14.7	4 11.8	8 23.5	1 2.9	3 8.8		34 100	34
	1	南洋南部 (170°E以西)	0—5N 166—172E	19					1 0.8	2 1.6	60 48.8	32 26.0	20 16.3	8 6.5						123 100	697
	1	南洋南部 (170°E以東)	6—10N 171—175E	11						5 8.3	13 21.7	13 21.7	17 28.3	9 15.0	3 5.0					60 100	60
	3	ソロモン	4—15S 149—158E	54				1 0.2	4 0.7	6 1.1	67 12.2	177 32.2	94 17.1	113 20.6	70 12.8	11 2.0	3 0.5	3 0.5		549 100	2307
	6	ニューカレドニア	16—27S 153—175E	111						1 0.2	15 3.2	55 11.9	82 17.7	137 29.6	132 28.5	34 7.3	4 0.9	3 0.6		463 100	3340
	3	ニュージーランド	31—36S 174E—180	95					1 2.0	3 6.0	4 8.0	9 18.0	6 12.0	17 34.0	6 12.0	4 8.0				50 100	78
	4	小スンダチモール	10—15S 114—119E	92						4 1.9	31 15.0	48 23.2	55 26.6	45 21.7	17 8.2	6 2.9		1 0.5		207 100	523
	1	ジャワ沿海	10—11S 111—112E	5							33 34.7	32 33.7	18 18.9	10 10.5	2 2.1					95 100	109

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	60 cm 以下	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181 cm 以上	計	漁獲尾数
	1	0—20N 140—120W	0—1N 140—130W	15					3 2.4	5 4.0	2 1.6	4 3.2	18 14.3	14 11.1	35 27.8	24 19.0	13 10.3	8 6.3	126 100	541
	2	ガラパゴス	6—9S 120—105W	70				1 0.3		3 1.0	12 3.8	19 6.0	36 11.4	35 11.1	56 17.8	98 31.1	37 11.7	18 5.7	315 100	3833
	8	30—40N 180—140W	29—33N 161—140W	207			1 0.1	13 0.9	53 3.8	29 2.1	93 6.7	91 6.5	83 5.9	504 36.1	415 29.7	67 4.8	46 3.3	3 0.2	1398 100	5204
め	1	ミッドウエー	28—30N 167—164W	19			5 2.3	10 4.7		3 1.4	14 6.5	18 8.4	11 5.1	69 32.1	56 26.0	16 7.4	12 5.6	1 0.5	215 100	397
	4	ハワイ南東 (5°N 以北)	4—8N 162—140W	70				2 0.5	4 0.9	18 4.1	62 14.2	75 17.2	88 20.1	65 14.9	55 12.6	27 6.2	28 6.4	13 3.0	437 100	2072
	2	ハワイ南西 (5°N 以北)	6—8N 178—168W	31				2 0.8	5 2.0	21 8.6	45 18.4	66 26.9	57 23.3	27 11.0	17 6.9	3 1.2	2 0.8		245 100	1325
	5	ハワイ南西 (5°N 以南)	1S—7N 179E—163W	101				2 0.4	11 2.3	70 14.5	119 24.7	109 22.6	78 16.2	39 8.1	21 4.4	16 3.3	9 1.9	8 1.7	482 100	1071
	1	タヒチ	18—23S 148—141W	24					3 7.1	2 4.8	4 9.5	9 21.4	13 31.0	5 11.9	3 7.1	2 4.8	1 2.4		42 100	127
ば	1	チヤタム	35—37S 180—178W	19					1 33.3				1 33.3		1 33.3				3 100	3
	6	35—40N 150E—180	35—40N 153—175E	105				10 1.7	5 0.8	25 4.2	49 8.3	21 3.5	141 23.8	163 27.5	92 15.5	37 6.2	36 6.1	14 2.4	593 100	1138
	1	南洋南部 (170°E以西)	0—5N 166—172E	19				1 1.8	3 5.4	9 16.1	8 14.3	10 17.9	17 30.4	6 10.7	2 3.6				56 100	211
	1	南洋南部 (170°E以東)	6—10N 171—175E	11					1 1.6	4 6.6	11 18.0	10 16.4	27 44.3	3 4.9	4 6.6	1 1.6			61 100	117
ち	2	ソロモン	4—15S 151—158E	29				1 1.3	5 6.3	11 13.8	19 23.8	17 21.3	11 13.8	10 12.5	4 5.0	2 2.5			80 100	103
	6	ニユーカレドニア	16—27S 151—175E	110					11 10.8	7 6.9	12 11.8	15 14.7	21 20.6	16 15.7	17 16.7	2 2.0	1 1.0		102 100	384
	6	ニユージーランド	30—36S 174E—180	149					2 1.2	17 9.8	72 41.6	30 17.3	30 17.3	9 5.2	11 6.4	2 1.2			173 100	470
	6	小スンダチモール	10—15S 114—119E	129						15 5.9	52 20.3	86 33.6	69 27.0	20 7.8	9 3.5	4 1.6	1 0.4		256 100	717

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	40 cm以下	41—50	51—60	61—70	71—80	81—90	91—100	101—110	111—120	121 cm以上					計	漁獲尾数
びんなが	1	30—40N 180—140W	30—33N 150—147W	31								3 60.0	2 40.0						5 100	10
	1	ミッドウエー	28—30N 167—164W	19							3 7.1	14 33.3	23 54.8	2 4.8					42 100	45
	2	35—40N 150E—180	35—38N 159—175E	28						9 6.9	69 53.1	43 33.1	9 6.9						130 100	446
	1	ソロモン	4—15S 151—156E	24						37 24.2	108 70.6	8 5.2							153 100	1503
	4	小スンダチモール	10—15S 114—119E	84							28 17.5	132 82.5							160 100	2654

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	80 cm以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201 cm以上	計	漁獲尾数
いんどまぐろ	1	チヤタム	35—37S 180—178E	19			7 1.9	35 9.6	87 23.8	45 12.3	70 19.2	86 23.6	28 7.7	7 1.9					365 100	1965
	6	ニユージーランド	30—36S 174E—180	169	2 0.1	2 0.1	39 1.5	503 18.9	589 22.2	514 19.4	457 17.2	324 12.2	145 5.5	51 1.9	24 0.9	4 0.2	2 0.1		2656 100	18682
	6	小スンダチモール	10—15S 114—119E	131					1 0.1	10 0.7	87 6.5	351 26.0	468 34.7	342 25.4	84 6.2	5 0.4			1348 100	8641

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130 cm以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251 cm以上	計	漁獲尾数
くろ	1	0—20N 140—120W	0—1N 140—130W	15			1 2.7	1 2.7	7 18.9	2 5.4	9 24.3	3 8.1	1 2.7	3 8.1	4 10.8	1 2.7	1 2.7	4 10.8	37 100	129
	1	ガラパゴス	7—9S 111—105W	32						2 7.1	4 14.3	5 17.9	4 14.3	3 10.7	2 7.1	4 14.3		4 14.3	28 100	76
	4	30—40N 180—140W	30—33N 159—147W	100					1 1.3	4 5.2	2 2.6	7 9.1	16 20.8	18 23.4	12 15.6	6 7.8	6 7.8	5 6.5	77 100	99
	1	ミッドウエー	28—30N 167—164W	19						2 15.4	1 7.7	1 7.7	2 15.4	1 7.7	3 23.1	1 7.7	1 7.7	1 7.7	13 100	18
	3	ハワイ南東 (5°N以北)	4—8N 162—146W	53	1 0.5	8 4.3	11 5.9	22 11.8	52 27.8	39 20.9	25 13.4	7 3.7	6 3.2	4 2.1	3 1.6	7 3.7	1 0.5	1 0.5	187 100	428

か	1	ハワイ南西 (5°N以北)	7—8N 178—177W	11	9 9.5	17 17.9	11 11.6	13 13.7	25 26.3	1 1.1	3 3.2	3 3.2	4 4.2	4 4.2	1 1.1	4 4.2				95 100	191
	5	ハワイ南西 (5°N以南)	1S—7N 179E—163W	101	5 1.9	24 9.2	21 8.0	35 13.4	51 19.5	30 11.5	21 8.0	19 7.3	16 6.1	14 5.4	10 3.8		5 1.9	10 3.8		261 100	587
	1	タヒチ	18—23S 148—141W	24	1 3.3	4 13.3		2 6.7	8 26.7	7 23.3	2 6.7	1 3.3		3 10.0	1 3.3	1 3.3				30 100	123
	2	35—40N 150E—180	36—38N 153—158E	35				1 9.1			4 36.4		2 18.2	2 18.2	1 9.1		1 9.1			11 100	12
わ	1	南洋南部 (170°E以西)	0—5N 166—172E	19	2 5.0	5 12.5	8 20.0	9 22.5	13 32.5	1 2.5		1 2.5	1 2.5							40 100	174
	1	南洋南部 (170°E以東)	6—10N 171—175E	11	2 2.6	5 6.6	16 21.1	22 28.9	13 17.1	8 10.5	1 1.3	1 1.3	4 5.3	2 2.6	1 1.3	1 1.3				76 100	123
	1	ソロモン	4—15S 151—156E	24	3 5.0	9 15.0	12 20.0	5 8.3	16 26.7	6 10.0	2 3.3	1 1.7		1 1.7	2 3.3	1 1.7		2 3.3		60 100	60
	7	ニューカレドニア	16—27S 151—175E	122			3 3.5	1 1.2	15 17.4	16 18.6	9 10.5	5 5.8	6 7.0	7 8.1	7 8.1	4 4.7	3 3.5	10 11.6		86 100	107
	6	小スンダチモール	10—15S 114—119E	131	3 3.4	9 10.2	3 3.4	5 5.7	19 21.6	5 5.7	17 19.3	4 4.5	6 6.8	2 2.3	1 1.1	8 9.1	2 2.3	4 4.5		88 100	281
魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251 cm 以上		計	漁獲尾数
し	1	0—20N 140—120W	0—1N 140—130W	15							1 50.0	1 50.0								2 100	4
	1	ガラパゴス	7—9S 111—105W	32									1 33.3					2 66.7		3 100	3
	2	30—40N 180—140W	30—33N 156—147W	57						2 66.7	1 33.3									3 100	3
	2	ハワイ南東 (5°N以北)	4—8N 153—140W	16						1 14.3	2 28.6					2 28.6		2 28.6		7 100	10
ろ	3	ハワイ南西 (5°N以南)	0—5N 179—167W	64		1 8.3	3 25.0	2 16.7			2 16.7						4 33.3			12 100	12
	1	タヒチ	18—23S 148—141W	24						1 50.0		1 50.0								2 100	8
	1	サモア	0—2S 167—164W	17				3 50.0		3 50.0										6 100	6

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	100cm以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221cm以上	計	漁獲尾数
	1	南洋南部 (170°E以西)	0—5N 166—172E	19			1 50.0					1 50.0							2 100	3
か	1	南洋南部 (170°E以東)	6—10N 171—175E	11						1 100.0									1 100	2
	3	ソロンモ	4—15S 144—158E	40		1 1.7	10 17.2	10 17.2	4 6.9	3 5.2	5 8.6	3 5.2	3 5.2		3 5.2	1 1.7	3 5.2	12 20.7	58 100	57
わ	5	小スンダ チモール	10—15S 114—119E	120	6 2.6	71 30.9	88 38.3	23 10.0	7 3.0	5 2.2	10 4.3	2 0.9	6 2.6	3 1.3	4 1.7	2 0.9	2 0.9	1 0.4	230 100	656
	1	ジヤワ沿海	10—11S 111—112E	5		16 24.6	31 47.7	11 16.9	1 1.5	1 1.5	2 3.1	1 1.5			1 1.5			1 1.5	65 100	74

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	100cm以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221cm以上	計	漁獲尾数
	1	0—20N 140—120W	0—1N 140—130W	15							3 60.0	2 40.0							5 100	8
	1	ガラパゴス	7—9S 111—105W	32						3 8.8	9 26.5	15 44.1	5 14.7	2 5.9					34 100	124
ま	1	30—40N 180—140W	30—32N 159—150W	29		2 5.3	16 42.1	14 36.8	1 2.6	4 10.5	1 2.6								38 100	38
	1	ミツドウエー	28—30N 167—164W	19				9 13.8	36 55.4	16 24.6	3 4.6	1 1.5							65 100	104
か	1	ハワイ南東 (5°N以北)	6—7N 150—147W	13								1 100.0							1 100	3
	3	ハワイ南西 (5°N以南)	0—5N 179—167W	64					1 14.3	2 28.6	4 5.71								7 100	7
	1	タヒチ	18—23S 148—141W	24						5 10.2	16 32.7	10 20.4	1 2.0	8 16.3	6 12.2	3 6.1			49 100	57
じ	3	35—40N 150E—180	35—38N 153—164E	60		2 1.6	26 20.8	50 40.0	40 32.0	5 4.0	2 1.6								125 100	212
	1	南洋南部 (170°E以東)	6—10N 171—175E	11					1 100.0										1 100	1
	1	ソロモン	4—15S 151—156E	24					1 3.3		2 6.7	13 43.3	12 40.0	2 6.7					30 100	30
き	6	ニユー カレドニア	16—27S 151—175E	110			2 1.7	1 0.9	2 1.7	7 6.0	13 11.2	36 31.0	26 22.4	23 19.8	6 5.2				116 100	326

	5	ニユー ジーランド	31—36S 174E—180	140								10 24.4	7 17.1	8 19.5	10 24.4	6 14.6				41 100	56
	6	小スンダ チモール	10—15S 114—119E	131		1 0.2	1 0.2	37 8.8	224 53.5	113 27.0	29 6.9	13 3.1	1 0.2							419 100	1077

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	80 cm 以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201 cm 以上		計	漁獲尾数
	1	0—20N 140—120W	0—1N 140—130W	15												1 25.0	2 50.0	1 25.0		4 100	15
	1	ガラパゴス	7—9S 111—105W	32								1 14.3		1 14.3	1 14.3		1 14.3	3 42.9		7 100	12
め	2	30—40N 180—140W	30—32N 156—147W	40							1 33.3			1 33.3			1 33.3			3 100	3
	1	ミッドウエー	28—30N 167—164W	19							1 20.0			1 20.0	1 20.0		2 40.0			5 100	5
	2	ハワイ南東 (5°N以北)	4—7N 162—147W	30						1 25.0	1 25.0							2 50.0		4 100	4
	2	ハワイ南西 (5°N以南)	0—4N 176—167W	43							1 5.9	1 5.9	5 29.4	2 11.8	1 5.9	4 23.5	1 5.9	2 11.8		17 100	17
か	1	サモア	0—2S 167—164W	17							1 10.0		2 20.0	1 10.0	4 40.0	1 10.0	1 10.0			10 100	10
	1	40—45N 150E—180	40—42N 171—174E	17					6 5.4	58 51.8				2 1.8	4 3.6	13 11.6	11 9.8	18 16.1		112 100	218
	2	35—40N 150E—180	36—38N 153—158E	35						1 5.6	1 5.6	2 11.1	3 16.7	2 11.1	2 11.1	3 16.7	3 16.7	1 5.6		18 100	18
じ	1	南洋南部 (170°E以西)	0—5N 166—172E	19						1 33.3	1 33.3			1 33.3						3 100	3
	1	南洋南部 (170°E以東)	6—10N 171—175E	11														1 100.0		1 100	1
	1	ソロモン	4—15S 151—156E	24						1 12.5	1 12.5		1 12.5	1 12.5	1 12.5			3 37.5		8 100	8
き	8	ニユー カレドニア	16—27S 151—175E	137						1 1.1	4 4.3		9 9.7	10 10.8	13 14.0	13 14.0	14 15.1	29 31.2		93 100	161
	4	ニユー ジーランド	31—36S 174E—180	114						1 10.0		1 10.0	1 10.0		1 10.0		1 10.0	5 50.0		10 100	24

＝紹 介 欄＝

船舶の青酸ガス燻蒸並に強力殺虫ラツカーに就て

鮪漁業研究会

青酸ガス燻蒸

鮪漁船の外航船等において青酸ガス燻蒸は殺虫殺鼠に極めて有効であるが、それ丈に非常に猛毒で之に対する不注意は取返しのつかない事故を起す原因になるので燻蒸責任者と充分連絡の上準備を進め検疫官の指示及び注意事項を全乗組員に徹底の上燻蒸効果及び事故防止の万全を期することである。漁船燻蒸に当つては次の事項に留意のこと。

1. 漁船の居住区は空氣の流通が悪いので燻蒸当夜は当直者以外は全員陸上に宿泊のこと。
1. 当直士官は検疫官が來船するまでに前回燻蒸又は免除証明書、国籍証書、船員名簿、航海日誌、船長の印鑑を用意しおくこと。（当直士官は検疫官歸船迄必ず在船のこと）
1. 燻蒸中の信号旗「G. O. U」を用意のこと。
1. 水氣のある飲食物は必ず室外へ出しておくこと。
1. 歸船後は毛布、マツト類を外に出し良く叩き室内の大掃除をすること

強力殺虫ラツカー

船内に生息している油虫、南京虫等の害虫に対してこの薬品を船室内に塗布することにより、最底1年から2年間は全滅させることの出來る効力の永い強力な殺虫ラツカーである。青酸ガス燻蒸とは違つて何等の危険もなく然かも乗組員が下船する心要もなく、塗布後20分—30分で乾燥する。但し鼠は死滅しないので、これの塗布のみで検疫所発行の証明書は取得出來ない。

鮪漁船の青酸ガス燻蒸•殺虫•消毒には東洋燻蒸の連絡所を新設しましたから御用命下さい

三崎連絡所　三浦市三崎町花暮158（県漁連隣）電話 3548

石　田　商　店

石　田　芳　正

東 洋 燻 蒸 株 式 会 社

本　　社　　東京都中央区京橋三ノ一　電話（56）3982 番（通直）
横浜支社　　横浜市神奈川区榮町二ノ二七　電話（44）3384 番

マグロ漁況概況豫報 （1959年10月）

神奈川県水試漁業指導科

1. 太平洋西経中部漁場

西経140°から110°にかけての海域のメバチは、0°から北緯4°までの水帯が不漁になり、北緯4°から10°までの水帯が8月にひき続いて好漁です。釣獲率は、北部が3.5，南部が3.0です。

9月に180°から西経140°に分布していたクロカワは、8月から次第に東へ移動していたが、9月には、パルミラ以西の海域が不漁になり、以東の海域のみが釣獲率0.6で好漁です。

2. 太平洋西経南部漁場

ファンニングから西経140°にかけての海域の北緯5°近くではクロカワが漁獲され、釣獲率は0.5になります。

西経140°から110°にかけての、0°から南緯2°までの水帯と、南緯7°から10°までの水帯では、キハダとメバチが好漁で、釣獲率は、北部漁場のキハダが5.0，メバチが4.0南部漁場のキハダが4.0，メバチが3.0になります。

西経140°から110°までの南緯15°から30°にかけての海域のビンナガの釣獲率は上昇中ですが、釣獲率は1.5で、まだ好漁にはなりません。

3. 太平洋東経北部漁場

メバチは伊豆諸島西方海域のみが好漁で、釣獲率は1.0，マカジキは北域33°から38°までの東経150°から180°にかけての海域が好漁になり、釣獲率は0.5，メカジキは伊豆諸島東方海域が好漁で、釣獲率は1.0になります。マカジキは、今年が好漁年で、漁獲は比較的高いでしようが、魚体は稍小さいです。

4. 太平洋東経中部漁場

北緯5°から10°までの東経130°から170°にかけての海域のクロカワはなお好漁で、釣獲率は0.5になります。

0°から北緯5°までの東経130°から170°にかけての海域のキハダは好漁期に入りますが、31年以降漁獲が年々低下していますので、あまり高い漁獲はのぞめないかもしれません。

5. 太平洋東経南部漁場

9月に廣範圍にわたつて分布していたビンナガがの好漁海域は、南緯10°から15°までの東経130°から180°にかけての海域のみになります。釣獲率は3.0で、9月と変わりません。

6. 東部印度洋漁場

バンダ海ではキハダとメバチが好漁になり、釣獲率はキハダが3.0，メバチが2.0になります。

9月に南緯6°から1°までの水帯で好漁であつたメバチは、好漁海域がひろがり、北端は0°，東経105°以西では南端が12°になります。なお、逆に小スンダ列島南側は不漁になります。釣獲率は9月と同じで25°程度です

9月に、ココス島周辺からオーストラリアのスチーヴ岬にかけての海域以南が好漁であつたビンナガは、ココス島周辺が釣獲率2.5，スチーヴ岬沖合が2.0で9月より著しく低下し、好漁海域は、釣獲率4.0の洋心部のみになります。

インドマグロの好漁海域は9月より稍西に擴大し、小スンダ列島南側では南緯10°以南、ジヤワ南側では南緯12°以南の海域が好漁になります。釣獲率は9月と同じで4.5になります。

マカジキは、0°から南緯10°までの水帯とココス島東方海域が釣獲率3.0，オーストラリアのブルーム沖は好漁で、釣獲率は0.7になります。

7. 中、西部印度洋漁場

南緯10°から30°までの海域のビンナガと、0°から南緯10°までの海域のマカジキが好漁で、釣獲率は、ビンナガの北部海域が3.5，南部海域が6.0，マカジキが0.4になります。

8. 大西洋漁場

キハダの漁況は西経30°の東西で異なり、以東の海域は好漁海域が南に下がり始め、以西の海域は北緯2°線周辺に集中し始めます。従つて、北緯5°以北の漁獲は著しく低下し、釣獲率は0.7，北緯5°から南緯5°までの西経10°以西の海域は上昇し始め釣獲率は0.6，南緯5°以南の海域は全般的に不漁です。

鮪類標識放流について

◇ 1959年6月1日から7月31日までの間に放流実施の報告があつた船数は1隻（4尾）である。

放流実施船名及び実施の概要

船名	標識番号	放流年月日	放流位置	魚種（尾数）
8崎吉丸	×0121	1959年1月10日	22°～10°S 134°～00°W	めばち (1)
8崎吉丸	×0122 ×0123	1959年1月19日	23°～30°S 134°～05°W	くろかわ (1) きはだ (1)
8崎吉丸	×0124	1959年1月30日	21°～50°S 140°～08W	くろかわ (1)

クロカワの西部太平洋における漁獲と体長の周年変化および　性，回遊との関係*

中　込　　淳**

クロカワの西部太平洋における漁獲（釣獲率；釣100本当りの漁獲尾数）と体長（平均尾叉長）の季節変化について調べたところ，興味ある現象を見出したので報告する．

資　料

20～30° N，130°～170° E の海域（以下 A と表わす），0～10° N，130～170° E の海域（以下 B と表わす），15～35° S，150～180° E の海域（以下 D と表わす）の釣獲率は神奈川県水試の報告[1] より引用，平均体長は同報告[1] の体長組成より算出し，0～10° S，130～170° E の海域（以下 C と表わす）の釣獲率と平均体長は神奈川県水試で調査した結果から算出した．

海域 B の性比の季節変化は神奈川県水試旧試験船相模丸[2)3)4)5]，岩手県水試岩手丸[6)7]，宮崎県教育委員会進洋丸[8]，宮崎県水試みやざき丸[9]，千葉県安房水高共栄丸，千潮丸[10]，鹿児島大学敬天丸[11]の資料より算出した．

結果 および 考察

1）漁獲と体長の周年変化

西部太平洋各海区の漁獲と体長の周年変化の模型図は図 1（イ）のようになる．

まず漁獲の周年変化をみると，海区 A では夏高冬低，D では冬高夏低，B，C では春季と秋季が高く冬季と夏季が低い．ただし，B は秋季より晩夏が高く夏季は稍低い程度である．従って，魚群は冬季海区 D にあり，春季 C，B を通って北上し，夏季 D にあり，秋季 B，C を通って南下するものと考えられ，南北季節回遊説[6]と一致する．

次に漁獲と体長の周年変化を比較すると，海区 A，D では漁獲の低い時季に魚体が大きく漁獲の高い時季に魚体が小さく，海区 B，C では漁獲の高い時季に魚体も大きく漁獲の低い期に魚体も小さい．すなわち，漁獲と体長の関係は，海区 A，D では逆比例，B，C では正比例的となっている．なお，海区 A，D において魚体の小さい時モードは160～170cm にあり，海区 B，C において魚体の大きい時モードは 170～190cm にある．

2）体長と性比

10～26° N の海域におけるクロカワは，性によりその体長範囲を明瞭に異にし，モードが雌は 215cm 付近，雄は165cm付近にある傾向がみられる[12]．海区 B においては体長の周年変化と性比の周年変化が一致する（図 1 (ロ)）．また，体長の変化が低下時においても

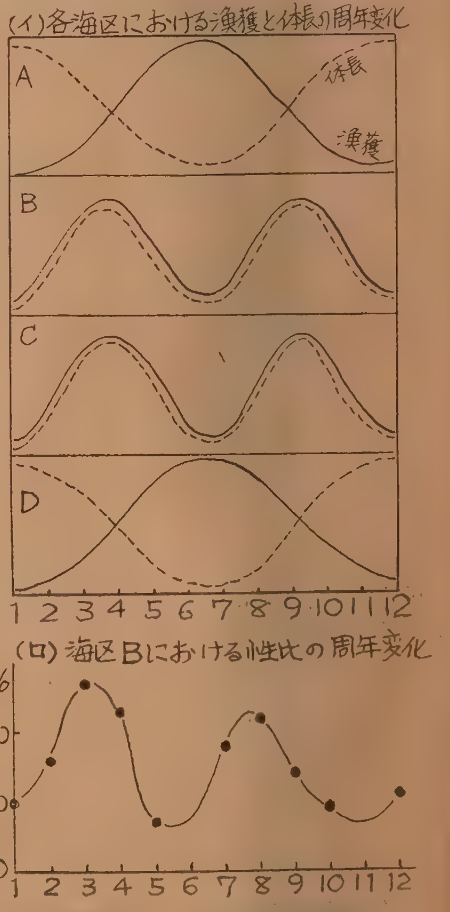


図1. 漁獲，体長，性比の海区別周年変化

* 日水誌23(9)，1958を改訂

**神奈川県水産試験場

ゆるやかであることは，平均体長が体長の異なる魚群の来遊により変化することを意味している．

また，この現象は，赤道以南の海域においては明らかでないが，同傾向である可能性が大きい．

3） 回遊と性との関係

1)，2)から，次のことが推察される．すなわち，回遊群は殆んど雄によって占められている．そして，表1に示すように，冬季は，回遊群は海区Dにおり，海区B，Cには秋季南下していた雄のうちの回遊におくれた若干が残存し，海区Aには雌がわずかに残存している．春季は北上回遊期に当り，回遊群は同じく出現した雌の群と共に海区B，Cに現われる．夏季は，回遊群は海区Aに出現し，海区B，Cでは雌の群が消滅して，春季北上していた雄のうちの回遊におくれた若干が残存し，海区Dでは雌がわずかに残存している．秋季は南下回遊期に当り，春季の傾向と同様である．

表1 回遊と性との関係

	冬	春	夏	秋
A	♀が残存		♂の回遊群	
B	♂がわずかに残存	♂の回遊群と♀	♂がわずかに残存	♂の回遊群と♀
C	♂がわずかに残存	♂の回遊群と♀	♂がわずかに残存	♂の回遊群と♀
D	♂の回遊群		♂が残存	

また，春，秋季に海区B，Cに出現する雌の群は，10～26°Nの海域において4～7乃至8月に成熟卵が多いことから[13]，夏は赤道以北，冬は赤道以南の海域に産卵のため散布するのではないかと考えられる．

文　　　献

1） 神奈川県水試 ： 鮪 漁 業 1～42， 鮪漁業研究会， 1953～1957.
2） 〃 ： 業務報告 昭和26年度， 1953.
3） 〃 ： 〃 〃 27 〃， 1955.
4） 〃 ： 〃 〃 29 〃， 1956.
5） 〃 ： 〃 〃 30 〃， 1957.
6） 飯塚和夫，平野伴一 ： 南洋鮪漁業試験調査報告， 昭和28年度， No.2， 1954.
7） 〃 ，青沼 巖 ： 〃 ， 〃 30 〃， No.2， 1956.
8） 宮崎県教育委員会 ： 進洋丸実習報告書， 昭和30年度， No.2， 1956.
9） 内田為彦，和泉衛松 ： みやざき丸まぐろ延縄漁業試験調査報告， 昭和30年度， No.3， 1956.
10） 安房水高校 ： 共栄丸，千潮丸乗船実習報告書， 昭和31年度， 1957.
11） 鹿児島大学水産学部 ： 敬天丸実習調査資料， 昭和31年7月23日～9月16日．
12） 上柳昭治 ： 南海区水研業績集 1 ，業績13， 1953.
13） 中村広司，藪田洋一，上柳昭治 ： 同上，業績14， 1953.

まぐろ研究報告の紹介

No. 4

キハダの緯度による魚体差

藪田洋一，行縄茂理

（南海区水産研究所報告 5，1957）

1950年6月～8月，140°～160°Eの海域では赤道反流は凡そ3°～8°N間にあること，体長組成がほぼ4°Nを境としてそれぞれ異るから，次の諸点が考えられる．

i） 南赤道流々域の組成は125～130cm付近にモードを持つ魚群が主群となっている．

ii） 赤道反流々域の組成は105～110cm間にモードを持つ魚群が主群となっている．

iii） 赤道反流と北赤道流の潮界付近の組成は125～130cm間にモードを持つ魚群が主群となっているが，大型魚（130cm以上）或いは（100cm以下）の割合が多い場合があり，その組成は複雑である．

iv） 海流別に資料を区分し得ないので，機械的に緯度で区分したが，もし正確に区分し得るならば，i～iii）の差異は更に明瞭になるであろう．

1952年5月～6月，150°～160°Eの海域では海流が全く不明なこと，測定資料の少いことから海流との関係につ

いて論ずることは出来ない．しかし緯度別の体長組成が0°，6°～8° Nあたりを境として南北で異る傾向が窺われる．

このような緯度にともなう体長組成の変化は1950年6月～8月と同様に，海流と密接な関係をもつものであり，又逆に体長組成の変化から海流範囲の年変動についてもある程度の推測を行い得る可能性を示すものであろう．

冬期についてみると，海流の資料のないこと，体長測定資料が少いことから，海流との関係は明らかでない．しかし資料の範囲内では，体長組成が緯度で異る傾向があり，これは海流との関連を示すものであろうが，夏季程明瞭でないようである．

このように緯度（海流）によって体長組成が著しく異る理由としては海流系が環境として全く別の意味を持つことが考えられる．　　（紹介　中　込）

1955年1月から1956年2月における中部赤道太平洋のまぐろ延縄漁業とまぐろトロール漁業

Edwin S. Iverson and Howard O. Yoshida
Special Scientific report-Fisheries No. 203

1）この報告は，1955年1月から1956年2月にかけてライン諸島周辺で行ったまぐろ9本付延縄漁業とまぐろトロール漁業の試験結果を一般的に調べたものである．

2） すでに発見されたように，同じ海域で同時に操業した船は，船と船の間の釣獲率の差が小さかった．

3） 最深層に達する鈎の1操業毎の平均水深は，この航海中約40ヒロの変化があった．また，赤道付近では，9° Nの付近や島のまわり10哩内の海域で多獲した最深層の鈎の水深からは，漁獲されなかった．

4） キハダの延縄漁獲物の組成は，その海域の過去の組成と殆んど同じであった．即ち，雄と雌との比は全航海中2.26：1.00であり，魚体の大きさの組成は，赤道付近，6° N付近，島の付近の3海域とも140～149cmに主モードをもっていたが，島の付近は小さな魚体が他海域より割合多くみられた。

5） ライン諸島のトロールによるキハダ漁獲物は，

① 体長組成は70～79cmにモードをもち，延縄による漁獲物より全般的に小さかった．

② この方法による漁業開拓を推せんするためにも，結果はあまりよくなかった．

③ 漁獲率の周年変化は3，4月に高率，5～9月に低率であった．

6）キハダトロールの漁獲率は，北（6° N付近）のパルミラ，キングマン礁周辺の方が，南（2° N付近）のクリスマス島より高率であった．

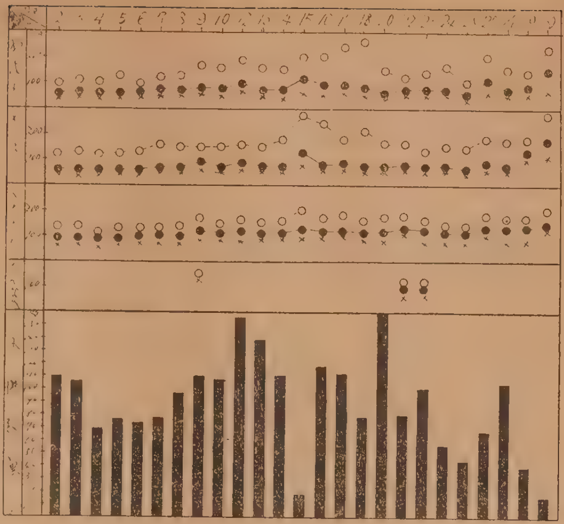
7） キハダ延縄の漁獲率は，大洋より島の周辺の方が高率で，過去の報告と一致した．

8） 大洋における延縄漁獲量は，以前の年に比較して低く．また9月が最も高率であった．

9） 島の付近の延縄漁獲量はかなりの変化を示したが，その変化は季節や海域の差に起因する様には思えなかった．

10） 日本の延縄漁業は，この間，赤道水帯で操業したが，釣獲率は低かった．

11） 標識放流の結果は豊富な研究を連続的にもたらした．この間も，1056尾のキハダ，21尾のカツオ，1尾のビンナガ，2尾のメバチにプラスチック・チューヴの標識を付けて放流したが1956年9月に，2尾の標識キハダが，放流した海域と同じ海域で再捕された．　　（ほん訳と紹介　中　込）



鮪類水揚価格表（三崎）昭和三十四年七月

暑中御伺

昭和34年盛夏

比重調整
樹脂加工　クレモナまぐろロープ

特徴
① まぐろの喰い良い
② 毎航海のタール染不要
③ 他の追随を許さない耐久力と耐摩耗力

営業種目……クレモナ、綿延縄及び仕立、漁具一式、救命筏

アサヒテックスロープ株式会社

本社　東京都三鷹市下連雀四〇〇番地　電話 武蔵野 3978・7923番
出張所　神奈川県三浦市三崎町花暮一四四番地　電話 三浦 2957番

お願い

◎昭和33年分34年分会費（一ヵ年分 1,700 円）未納の方は本会宛至急払込送金方（振替貯金口座横浜1472）お願い致します。　尚整理の都合もあり会費切れの向には一時会誌の送本を中止致しますからお含み願いあげます。

鮪　漁　業

1959年8月号

昭和 34 年 8 月 10 日 印刷
昭和 34 年 8 月 10 日 発行
監　修　神奈川県水産試験場調査部
編集兼発行人　菅野　進
神奈川県三浦市　神奈川県水産試験場内
発行所　鮪漁業研究会
（振替貯金口座 横浜 1472）

暑中御見舞

琉球水産株式会社
社長 長嶺彦昌
沖縄那覇市西新町2の7

焼津漁業協同組合
静岡県焼津市中234番地
電話（代表）3111・4191番

静岡県鰹鮪漁業協同組合
組合長 久保田太郎吉
静岡県鰹鮪漁業者協会
会長 竹内浅吉
静岡県焼津市中234番地
電話焼津2424番

焼津遠洋漁業協同組合
組合長理事 増井磯太郎
静岡県焼津市中230番地

昭和漁業株式会社
取締役社長 岡田清吉
常務取締役 新井喜一郎
黒石新太郎
静岡県焼津市城之腰115の1
電話（代表）2131番

用宗遠洋漁業株式会社
静岡市用宗1318番地
電話静岡(2)4195—6番

清寿漁業株式会社
静岡県清水市港町3の3

— 1959年 盛夏 —

暑

第 30 振興丸
石渡庄次
石渡春吉
石渡喜久司
神奈川県三浦市三崎町西浜46
電話（三浦）2760

光栄丸
金沢徳尾
神奈川県三浦市三崎町花暮132番地
電話（三浦）2321・2836番

中

御

小島大黒丸
小島政夫
神奈川県三浦市三崎町仲崎161番地
電話（三浦）2203番

山村大黒丸
山村利久
神奈川県三浦市三崎町花暮163番地
電話（三浦）2062・3071番

見

舞

輸出ヴィタミン油・缶詰・冷凍魚
遠洋漁業・各種魚類肝臓買付
湘南水産工業株式会社
東邦食品工業株式会社
神奈川県三浦市三崎町二町谷3806の4
電話三浦3370・3217番

—1959年

村松印刷株式会社
本　社　横須賀市大滝町2の15番地
電話横須賀254・957番
横浜工場　横浜市金沢区六浦町4033番地
電話金沢(7) 9992・9993・9131番

盛夏—

株式会社 横浜銀行三崎支店
支店長 松野恒夫
三浦市三崎町花暮123番地
電話（三浦）代表2181番

株式会社 日本相互銀行三崎支店
支店長 金井国男
三浦市三崎町西野1
電話（三浦）2578番

営業品目

商船用・漁船用並びに陸上用無線通信装置の製造

装備・補修一式

七洋電機株式会社

本社　東京都目黒区中目黒4丁目1315番地
電話荏原(712) 2525・2526・3314番

太洋無線が世界に誇る

船舶用
航空機用　各種　自動方向探知機
陸上用

太洋無線株式会社

東京都渋谷区衆楽町48番地
電話渋谷(46)代表5283―9番

▷最高の技術……永い信用◁

営業種目
高級無線通信機　ラジオヒーター
船舶用無線機　放送施設一式
高級無線用測定器　極超短波通信機
超短波通信機　ビーコン装置
VHF新聞通信社用

國際電氣株式會社

取締役社長　山下知二郎

本社・工場　東京都北多摩郡狛江町和泉150　電話砧(41)(代)7171―9番
電話武蔵調布472番
東京営業所　東京都港区芝西久保桜川町9　電話芝(43)代表7373―9番
大阪出張所　大阪市北区中之島2の25(江商ビル508号室)　電話北浜(23)4553番
福岡出張所　福岡市天神町55(伊藤ビル)　電話中(4)2589・8198番

―暑中御伺　　　　1959年盛夏―

営業種目

船舶・陸上

冷凍・冷蔵・製氷・冷房

冷凍・冷蔵・製氷工場
急速・空気凍結装置
冷房装置・冷凍機械器具
防熱装置・船舶冷凍冷蔵
} 設計　製作　施工

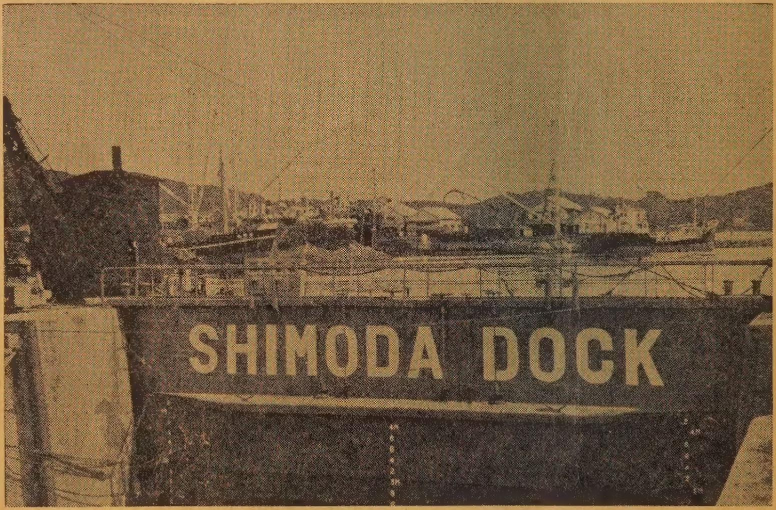
協同低温工業株式会社

本社　東京都千代田区神田佐久間町河岸58（夏目ビル2階）
電話下谷(83)0996番

800屯ドライドック完成

船渠	大きさ	長さ	幅	深さ	
		59.15 米	14.0 米	6.6 米	
	入渠可能船舶	長さ(垂線間)	幅 (型)	吃水(平均汐高線1.7米に於て)	総屯数
		57.0 米	11.0 米	4.41 米	800 屯

船台兼船架	建造又は上架可能船舶	構造	長さ	総屯数	数量
		4条軌条算盤式	50 米	500 屯	2
		2条軌条式	50 米	250 屯	2



下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社事務所 電話下田 1001(代表)～3番　本社現場事務所 電話下田1005(代表)～6番
武ヶ浜工場 電話下田 1008(代表)～9番
東京事務所　東京都中央区銀座東4－4 畜産会館1階　電話東京(54)9270(直通), 4121 (代表) －2

紫綬褒章に輝やく
泉井式ラインホーラー

株式會社　泉井鉄工所
高知県室戸町

鮪漁業　第六十一号　昭和三十四年八月十日発行　(毎月一回十日発行)
昭和三十一年二月二十三日　第三種郵便物認可